

誤嚥ゼロのまちづくり
「はっぴいごくんプロジェクト」
インセンティブ開発及び推進人材の育成
報告書

特定非営利活動法人メディカルケア協会

目次

P 3 はじめに

P 4 I 2017 年度実施予定事業

P 8 II 実施事業報告一覧

P 9 III 実施事業詳細報告

実施事業 1. インセンティブを高める手法やツール等の開発

- (1) インセンティブ手法の調査研究：先進事例の調査、ツールや教材への応用等

実施事業 2. インセンティブを高める手法やツール等の開発

- (2) インセンティブを高める仕掛けの開発：
 - (1)の応用によるツールの開発、地域色を加えた教材等

実施事業 3. 人材の育成（教材作成、講習会開催等）

- (1) インストラクターの養成（養成教材作成、講習会開催等）講習会開講
- (2) 上級リーダーの養成：養成教材作成、講習会開催等

実施事業 4. 住民参加型普及啓発活動

- (1) 候補地：八王子市、甲斐市、新宿区、横須賀市開催
- (2) 啓発活動ツールの作成
- (3) 地域キーパーソンを発掘しながら、既存コミュニティルートを通じた地域特性を生かした啓発活動を行う。

実施事業 5. 今後の事業目標実現にむけて

P 6 3 IV 実施体制

P 6 4 V 今後の活動について

P 6 7

参考資料 1～7

参考関係資料

参考資料 パンフレット

参考資料 朝日新聞記事 タウンニュース記事 はまかぜ記事

【はじめに】

2016年度、誤嚥ゼロのまちづくり「はっぴいごくんプロジェクト」を開始し、活動を続けていく中で本事業の有用性、ツールの有効性が確認でき、また課題もあがってきた。そこで、2017年度は課題を解決し、さらに発展させていくために必要な事業を行った。

【新たな課題と解決のための方策】

* 国の示す健康づくり指針（健康日本21）の中で、高齢者の健康づくりには「食事」が重要項目として掲げられているが、対策は「栄養」と「歯の健康」に限られており、その前提となる「飲み込む能力」嚥下機能については触れられていない。そこで、自治体による高齢者健康づくりの中に嚥下機能低下予防が組み込まれておらず、現時点でも具体的なプログラムは存在していない。

⇒ 本事業の新規性

* しかしながら、介護保険を使っていない自立した高齢者でも8~9割がむせたり、飲み込みづらさを感じたりと、嚥下機能が低下していることが、2016年事業でも示唆され、低栄養や脱水、窒息、誤嚥など死や要介護等の危険な状態を招く恐れがある。

⇒ 本事業の有用性

* 2016年事業において開発した「楽しく歌って踊れる誤嚥予防体操」はインパクトと皆で踊る楽しさから、啓発活動の旗印として重要な役割を担い、上記2つの対策として有効であることが確認されたが、横展開していくには人材が足りない。

⇒ 人材の育成が急務①

* セルフケアは継続して日々一人でも行うことが重要であることから、「主体的に行うこと」への行動変容に導くためには、インセンティブツールや手法を組み合わせる必要があるが、セルフケアにおける方法論が確立していない。

⇒ インセンティブツールや手法の開発②（今回の新規性）

I 2017 年度実施予定事業

1. 事業目的

啓発活動参加住民にとって、知り得た正しい知識や体操等をその場限りのものとしないうで、日常生活の中に取り入れて、毎日継続して実践していくことが重要である。又啓発活動の担い手（はっぴいごくんリーダー）として自らの学びや気づきを周囲の方々にも正確に伝え、摂食嚥下機能支援が必要な高リスク者の早期発見やフレイル対策に身近な地域の中で寄与することが本活動の本質であり、重要な点とである。

そこで、2017 年度においては、特に①活動の継続や共有のインセンティブを高めるツールや手法等を開発し、②積極的に活動を推進する人材を育成し、③他地域に横展開することで、生涯にわたって安心して口から美味しく食事が摂れる「誤嚥ゼロのまち」を確実に広げていくことを目的とする。

2. 事業目標

・インセンティブを高める手法やツール等の開発

継続してセルフケアをきちんと行うことや学んだ知識・体操等を周囲にも伝え、共有の輪を広げていくことにインセンティブが働く仕掛け（手法やツール等）を開発する。又実施状況の確認等成果指標も併せて開発する。

本開発により、健康づくりに熱心でない方や続かない方等への行動変容を促し、セルフケアが身につく事が期待でき、健康寿命の延伸にも貢献できる。

・積極的に啓発活動を推進する人材の育成

新たに①インストラクター（歯科衛生士、言語聴覚士、教員など医療・介護・教育専門職。啓発活動で講演や体操指導、上級リーダー研修等を行う教育役）と②上級リーダー（日々の地域活動で中心となる推進役。基本知識・体操を習得する）を新設し、啓発活動の担い手の知識・体操技術の向上と活動の浸透・拡充のための人材を確保する。（各 20 名以上）。

インストラクターには資格を持ちながら就業していない方、上級リーダーには前期高齢者等を起用し、新たな活躍の場を創出することも期待できる。

・「誤嚥ゼロのまちづくり」の他地域展開

インストラクター等を活用して 3 か所以上で横展開を目指す。さまざまな地域の特性に応じた展開方法のノウハウを蓄積することで、住民主導の健康づくりによる地域づくりモデルを構築できると期待できる。

- ・助成事業完了後の目標としては、3 年以内に本事業専任部門を立ち上げ、寄付金、自治体からの受託、受益者負担などで必要経費を賄うことができる体制の確立を目指す。

3. 事業内容

1. プロジェクト推進委員会の設置、開催は3か月に1回（計4回）
 - (1) 内容：本事業全体の活動推進に関わる助言、効果検証
 - (2) 委員：本領域に精通した方、影響力のある方など本事業推進に必要な方を5名
2. インセンティブを高める手法やツール等の開発
 - (1) インセンティブ手法の調査研究：
先進事例の調査、ツールや教材への応用等
 - (2) インセンティブを高める仕掛けの開発：
(1)の応用によるツールの開発、地域色を加えた教材等
(ex. 歌って踊れるご当地 SONG 嚙下体操、ウェブサイト「飲み込み110番」の活用など)
3. 推進人材の育成（教材作成、講習会開催等）
 - (1) インストラクターの養成（養成教材作成、講習会開催等）講習会は9月に1回開講
 - (2) 上級リーダーの養成（養成教材作成、講習会開催等）
講習会開催場所候補地：八王子市、甲斐市、藤枝市、新宿区、横須賀市
各1回開講（計5回）
4. 住民参加型普及啓発活動
 - (1) 候補地：八王子市、甲斐市、藤枝市、新宿区、横須賀市
各2回開催（計10回）
 - (2) 啓発活動ツールの作成（ご当地啓発活動教材、上級リーダーピンバッジ、インストラクター証、任命書等）
 - (3) 地域キーパーソンを発掘しながら、既存コミュニティルートを通じた地域特性を生かした啓発活動を行う。
5. 事業成果物
 - (1) インセンティブを高めるツール（歌って踊れるご当地 SONG 嚙下体操、教材、ウェブサイト「飲み込み110番」の増設分）
 - (2) 人材養成教材（インストラクター用、上級リーダー用）
 - (3) 啓発活動ツール
（啓発活動教材、上級リーダーピンバッジ・インストラクター証、任命書）
 - (4) 報告書（ノウハウのまとめと検証）

『提案内容詳細』

1) 人材育成について

2017年度は2016事業のモデル地域を中心に、新たに新設する「インストラクター」と「上級リーダー」の募集、育成を進めた。双方啓発活動の担い手の知識・体操技術の向上と今後活動を浸透・拡充していくために必要な人材となる。

1)-1. 上級リーダーの役割と養成予定人数

はっぴいごくんリーダーは自らが学び、「気づきの重要性」を個人的活動の中で身近な周囲の方々に伝えていくことが主な活動となるが、上級リーダーは、はっぴいごくんリーダーの中から、活動自体を広めていくことにも貢献して下さる人材であり、はっぴいごくんリーダーのまとめ役として、又日々の地域活動で中心となる推進役を担う。(20名)

具体的には主に高齢者サロン、会食会、学生ボランティア、健康づくりサークル、自治会、商店街など日頃から積極的に地域で活動を行っている方々を想定し、前期高齢者等の新たな活躍の場としても期待できると考えた。

1)-2. 上級リーダーの要件

・既存の地域活動団体の代表者や代表の推薦者など、活動基盤となる住民組織やボランティア組織などを持っている方、所属している方で、日常的に行っている地域活動を通じて活動基盤や連携先への本プロジェクトの普及を手伝って下さる方

・摂食嚥下機能に関する基礎知識を学び、嚥下うた体操ダンスを住民等に教えることができる方

1)-3. 上級リーダーの発掘の仕方

「上級リーダー」は既存の地域活動団体の代表者や代表の推薦者、元民生委員、地域の世話役など、活動基盤となる住民組織やボランティア組織などがある方を中心に声掛けを行い、育成し、日常的に行われている地域活動を通じて地域の高齢者へ啓発活動を行うルートを確立していく。特に高齢者サロン、会食会、学生ボランティア、健康づくりサークル、自治会などは最適な対象となる。

1)-4 インストラクターの役割、養成予定人数、要件

啓発活動で行う講演や体操指導、上級リーダー研修等を行う教育役。

具体的には主に医師、歯科医、歯科衛生士、言語聴覚士、看護師、管理栄養士、介護福祉士、健康運動指導士、薬剤師、教員などの医療・介護・教育関連資格保有者で、インストラクター養成教材の内容を習得した方(同等の知識や習得状況により当法人が教育役として認めた方も含む)。(20名)

資格を持ちながら就業していない方々の新たな活躍の場としても有意義と考えられる。

参考：はっぴいごくんリーダー（啓発活動の担い手：地域住民）

当法人の講習やイベントなどに参加し、誤嚥予防の重要性や摂食嚥下機能について学び、「気づき」を家族や知人など周囲の方々にも伝え、摂食嚥下機能支援が必要な高リスク者の早期発見やフレイル対策に身近な地域の中で貢献して下さる方々

2) インセンティブツールや手法の開発について

継続して主体的に行って頂くためには、1) 成果を明確に自覚できること、2) 発表の場や活躍の場など成果の共有ができること、3) 興味を持って楽しく行える などが重要な要素であり、行うことへの満足度が高まると考えられるため、成果の数値化や自己評価などの指標の開発、共有の機会、地域性を生かした魅力的なものを開発し、「歌って踊れる誤嚥予防体操」とセットで展開していく。

開発にあたっては研究者、企業、住民、医療・介護専門職など多彩なメンバーと協力して、試作と現場検証を重ねながら、形にしていきたいと考えた。

II 事業実施結果一覧

事業事業	事業目標	達成度合い	得られた成果
1. インセンティブを高める手法やツール等の開発 調査研究： (1) インセンティブ手法の調査、ツールや教材への応用等	・インセンティブを高める手法やツール等の開発 継続してセルフケアをきちんと行うことや学んだ知識・体操等を周囲にも伝え、共有の輪を広げていくことにインセンティブが働く仕掛け（手法やツール等）を開発する。又実施状況の確認等成果指標も併せて開発する。 本開発により、健康づくりに熱心でない方や続かない方等への行動変容を促し、セルフケアが身につく事が期待でき、健康寿命の延伸にも貢献できる。	インセンティブ手法に関する最近の動向を調査するとともに、本事業に最適なインセンティブ手法の調査・研究を行い、実際のインセンティブの開発に向けての方向性や具体的な開発物の指針を整理したことで当初事業目標を達成した。	具体的なインセンティブの開発ができた。また、今後の自立的事業展開に向けての方向性や具体的経済的追求めの礎ができた。
実施事業2. インセンティブを高める手法やツール等の開発 (2) インセンティブを高める仕掛けの開発： (1)の応用によるツールの開発、地域色を加えた教材等 (ex. 歌って踊れるご当地SONG 膝下体操、ウェブサイト「飲み込み110番」の活用など)	・インセンティブを高める手法やツール等の開発 継続してセルフケアをきちんと行うことや学んだ知識・体操等を周囲にも伝え、共有の輪を広げていくことにインセンティブが働く仕掛け（手法やツール等）を開発する。又実施状況の確認等成果指標も併せて開発する。 本開発により、健康づくりに熱心でない方や続かない方等への行動変容を促し、セルフケアが身につく事が期待でき、健康寿命の延伸にも貢献できる。	① 教育支援インセンティブとして、上級リーダー用の教材と関連資料、インストラクター養成用の教材と関連教材の作成をおこなった。 ② 活動成果支援インセンティブは、今回配食事業者向けのアセスメント表を業界初で提供した。また、継続プログラムのための体系ができた。 ③ 日常誤嚥予防活動支援インセンティブは、誤嚥防止のためのダンスとオリジナル曲を3セット制作し、啓発活動支援に役立つ。 ④ 地域間競争インセンティブについては、昨年度の実績のご当地ソングの作成を2箇所実施することで今後の地域での広がりの提案ができるようになった。	・昨年度地域ごくんリーダーの養成教材の作成を実施し、本年度は新たに「上級リーダー（地域ごくんリーダーを指導する立場）」と「インストラクター（専門職）」の2つの類型の人材育成・確保のための研修・育成教材を制作できたので次年度以降の利活用が可能となった。 ・配食業界向け初のアセスメントは本事業推進で重要な資料として今後期待される成果物となる。 ・啓発活動の入り口としての強力なコンテンツとして3類型できたことで、活動機会が得やすくなる。 ・ご当地ソングの各地での展開は本事業の核となっていくものと期待している。
実施事業3. 人材の育成（教材作成、講習会開催等） (1) インストラクターの養成（養成教材作成、講習会開催等）講習会は9月に1回開講 (2) 上級リーダーの養成（養成教材作成、講習会開催等）講習会開催場所候補地：八王子市、甲斐市、藤枝市、新宿区、横須賀市 各1回開講（計5回）	・積極的に啓発活動を推進する人材の育成 新たに①インストラクター（歯科衛生士、言語聴覚士、教員など医療・介護・教育専門職。啓発活動で講演や体操指導、上級リーダー研修等を行う教育役）と②上級リーダー（日々の地域活動で中心となる推進役。基本知識・体操を習得する）を新設し、啓発活動の担い手の知識・体操技術の向上と活動の浸透・拡充のための人材を確保する。（各20名以上） インストラクターには資格を持ちながら就業していない方、上級リーダーには前期高齢者等を起用し、新たな活躍の場を創出することも期待できる。	・インストラクターは、39名を養成（言語聴覚士19名、幼稚園教諭20名） ・上級リーダーは83名（地域ごくんリーダーより昇格者15名、学生ボランティア（専門職学生）68名）を養成 ・育成したインストラクター、上級リーダーにて、本年度は地域住民への啓発活動の主体者として実施活動した。	人材育成を研修・講習のステップを踏みながら、活動の発表の場として、また、実際に活躍できる「場」の設定も意識して、他のボランティア活動や地域貢献活動を実施している団体等との協業による展開が本事業の推進に役立つことも実証できた。また、多段階の世代での本事業の展開にむけて、若い世代のボランティア人材との連携は幅広い活動に期待を寄せることができる。
実施事業4. 住民参加型普及啓発活動 (1) 候補地：八王子市、甲斐市、藤枝市、新宿区、横須賀市 各2回開催（計10回） (2) 啓発活動ツールの作成（ご当地啓発活動教材、上級リーダーピンバッジ、インストラクター証、任命書等） (3) 地域キーパーソンを発掘しながら、既存コミュニティルートを通じた地域特性を生かした啓発活動を行う。	・「誤嚥ゼロのまちづくり」の他地域展開 インストラクター等を活用して3か所以上で展開を目指す。さまざまな地域の特性に応じた展開方法のノウハウを蓄積することで、住民主導の健康づくりによる地域づくりモデルを構築できると期待できる。	住民参加型普及啓発活動を「室内」「室外」「上級リーダー・地域ごくんリーダー」「インストラクター」の4つの軸で整理して活動地を選択したことで、多種多様な形態での啓発活動ができた。啓発活動への参加者合計800名超、活動認知者(1,500名超)の結果と、地域ごくんリーダー、上級リーダー、インストラクター参加者数延べ99名の実績は今後の広がりに期待感がますます高まった。	様々な啓発活動形態（規模の大小含め）での展開が可能となったとともに、啓発活動主体者の人材育成と確保のノウハウが獲得できて、多くの範囲での対応ができることが可視化できる状態になった。
実施事業5 自立的基盤確保に向けての基盤づくり	・助成事業完了後の目標としては、3年以内に本事業専任部門を立ち上げ、寄付金、自治体からの受託、受益者負担などで必要経費を賄うことができる体制の確立を目指す。	各実証事業やインセンティブツール開発から事業継続にむけた将来基盤構築について以下の2つの視点から検討した結果、 a) 今回の地域での誤嚥ゼロのまちづくりの啓発活動からの広域・高度化展開力の構築についてのスキームの視点 b) 開発したインセンティブ手法・商品からの視点での事業の展開が可視化できた。	・地域での誤嚥ゼロのまちづくりの啓発活動からの広域・高度化展開力の構築についてのスキームが標準化できた。 ・開発したインセンティブ手法・商品が利用者や地域住民のニーズにあった内容として提供できる。
III 実施体制 1. プロジェクト推進委員会の設置、開催は3か月に1回（計4回） (1) 内容：本事業全体の活動推進に関わる助言、効果検証 (2) 委員：本領域に精通した方、影響力のある方など本事業推進に必要な方を5名		多種多様な視点からの意見の拝聴を期待して委員への就任をお願いしたが、期待通りの対応をいただいた。	各成果物への意見等の反映ができた。

Ⅲ 実施事業詳細報告

実施事業 1. インセンティブを高める手法やツール等の開発

(1) インセンティブ手法の調査研究：

先進事例の調査、ツールや教材への応用等

事業目標

・ インセンティブを高める手法やツール等の開発

継続してセルフケアをきちんと行うことや学んだ知識・体操等を周囲にも伝え、共有の輪を広げていくことにインセンティブが働く仕掛け（手法やツール等）を開発する。又実施状況の確認等成果指標も併せて開発する。

本開発により、健康づくりに熱心でない方や続かない方等への行動変容を促し、セルフケアが身につく事が期待でき、健康寿命の延伸にも貢献できる。

1. 実施事項

インセンティブツールや手法の開発については、先に「インセンティブツールや手法の開発」についての事前調査・研究結果を踏まえて対応した。

本章では、「インセンティブツールや手法の開発について」の調査研究結果のなかで①インセンティブツールの開発例②インセンティブツールの告知活動についてその内容の一部を記載する¹。

2. インセンティブ用ツールの開発例

今回、昨年度の実績の利点を組み合わせて、インセンティブ用のツールを検討していくと、以下のような分類ができる。

- ① 教育支援インセンティブ
- ② 活動成果支援インセンティブ
- ③ 日常誤嚥予防活動支援インセンティブ
- ④ 地域間競争インセンティブ

① については、人材育成の視点から、地域活動者への支援教材等の作成、専門職への専門性を活かした教材等の作成がこれにあたる。

② については、誤嚥予防のまちづくりの啓発活動を行う場合の参加者に対する誤嚥に対する自身の客観的データが取得・確認・分析・実践成果の検証

¹ 内容詳細については、「インセンティブ手法の調査研究」参照

ができるチェックリスト等がこれに該当する。

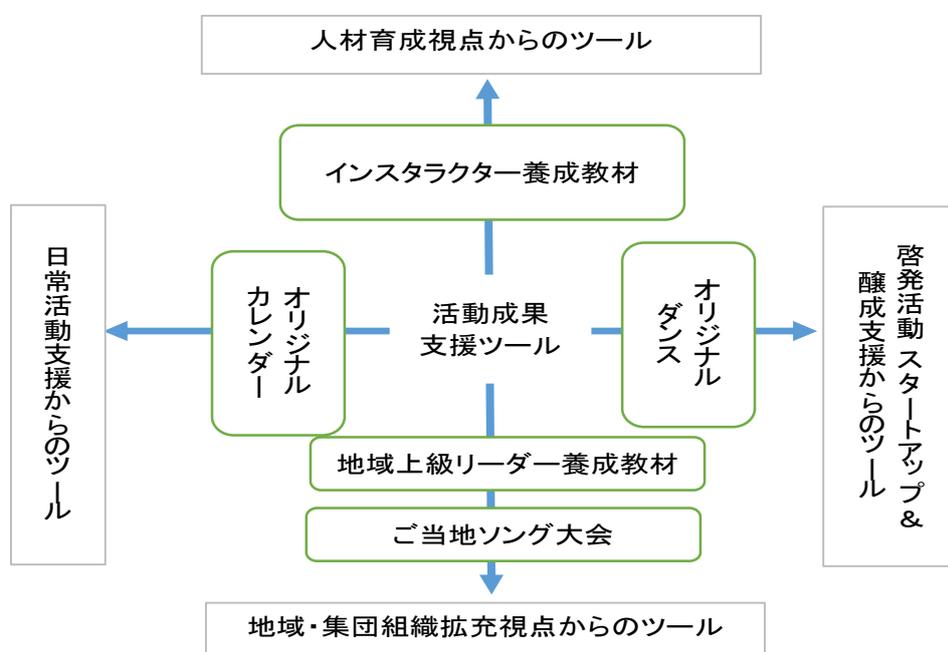
- ③ は、一般住民の誤嚥予防に対する啓発活動ツールの中核部分で日常的に一般住民が誤嚥に対する意識を持った活動ができるように支援するものである。
- ④ 平成 28、29 年度啓発活動をみていくと、個人の誤嚥予防活動から集団や地域での誤嚥予防活動は、その広がりとともに、地域・集団間競争が生まれる。こうした現状をより具体的に意識醸成化していく支援ツールとして考えられたものである。

3. カテゴリーのポジショニング

2で示したカテゴリーをポジショニングしていくと、図表—1のようになる。こうしたポジショニングは、ツール開発上において、同じようなカテゴリーにならないためのチェック図として活用できる。

また、各種ツールを作成して、次の展開に向かうときには、その方向性の変更において、どの軸を変更していくかが明確になり、過去のツールとの整合性が取りやすくなる。

図表—1 インセンティブツールの分類



4. 具体的なツール開発例

先に示した考え方や事業目的・予定内容を踏まえると、以下のようなツールの開発が考えられる。

図表—2 インセンティブツール開発例

項目	部門	使用用途	名称	内容
教育支援インセンティブ	人材育成	地域展開人材確保・育成	啓発活動ツール	啓発活動実施前後に「誤嚥」とは何か等の基本的な知識を確認するための冊子
			地域一般住民向け啓発活動教材	地域住民に「誤嚥ゼロのまちづくり」の担い手としての自覚を促進するための基本的な研修教材（ごっくんリーダーとしての心構え含む）
		専門職確保・育成	啓発活動支援ツール	地域のごっくんリーダーが日常的に啓発活動などを実施するなかで、継続的に実施できるように、専門職として支援するためのツールの作成
			一般住民継続支援ツール	専門職が一般住民に継続的に誤嚥に関する諸活動を実施するためのツール
			専門職技能向上教材	口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーション、低栄養対応、食環境づくりの4つを盛り込んだ誤嚥防止のための基本教材で、理論と実技を併せ持った教材（レスンプラン必須）
活動成果支援インセンティブ	成果確認用指標など	啓発活動スタート時	基本チェックリスト	食べる力の維持・向上のための「食べる力」チェックシート
		日常活動成果確認時	行動変容チェックリスト	体操やダンスを実施することでその成果を自分自身で確認するためのチェックリスト
		日常活動確認	食べるしあわせいつまでもカレンダーチェック表	誤嚥予防のための各種体操等の実施（日常）の結果を書き込むことができるカレンダー様式の表の標準化様式のカレンダー
		日常活動確認医学的解説書	カレンダー体操の医学的解説書	専門職等が日常継続的誤嚥予防活動確認のための、医学的見地からの解説書
		職種別チェック	配食産業用	配食産業のための口腔ケア等の事前チェック表の作成により、自宅での実施者の配食事業者が見守りを兼ねたチェック表の作成
日常誤嚥予防活動支援インセンティブ	一定集団、地域での啓発活動支援	動的支援ツール	誤嚥予防のための「オリジナル」ダンス	誤嚥に役立つ訓練技法の入った独自の歌詞や振り付けや楽曲で「楽しみながら」誤嚥予防ができる誤嚥防止用ツール
	個人宅で自己訓練支援	動的支援ツール	（一般住民向けの解説書と指導者等への解説書）付き	
		静的支援ツール	誤嚥予防のための毎日実施体操カレンダー	1ヶ月単位で体操が変わり12ヶ月間用意されていること。月を追う毎に難くなる段階的な要素を組み入れる。また、実施結果が記録できる（食べるしあわせいつまでもカレンダー表）内容を一体化させる。
地域間競争インセンティブ	一定の集団、地域での活動成果発表支援	動的支援ツール	地域オリジナルソング	地域の特長や組織の特徴を盛り込んだ歌詞と楽曲とダンス
		成果発表会	全国の地域オリジナルソングによる誤嚥ゼロまちづくり活動の成果を発表する全国大会を開催する	

5. インセンティブツールの開発における留意事項等の確認

インセンティブツールの開発における中核部分である、「日常誤嚥予防活動支援インセンティブ」の「オリジナルソング・ダンス」について、その特長や実証結果の確認を行うことで、より具体的な留意事項の確認ができる。

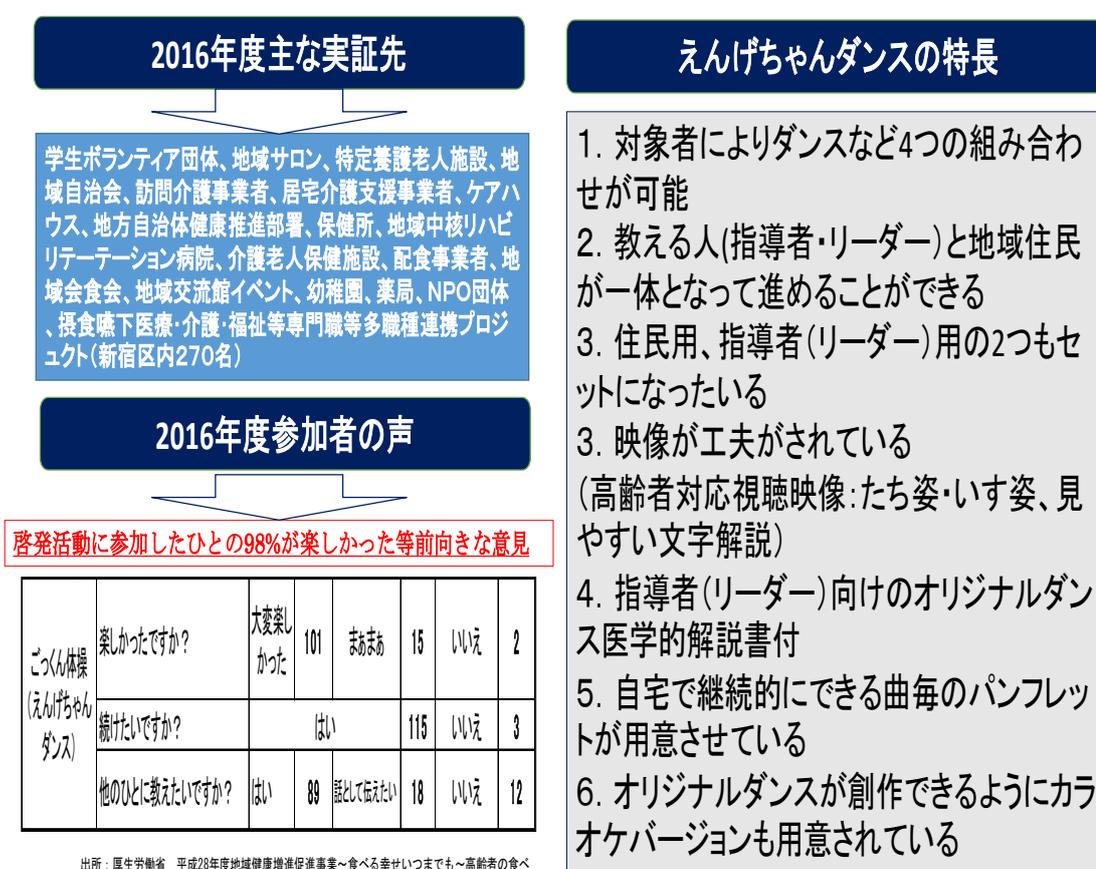
以下、留意事項等を記載する。

また、地域間競争インセンティブのご当地ソングの発表会についても本章で報告していく。

(1) オリジナルソング・ダンスと創作

2016年実証した施設等や参加者の声を確認するとともに、特長として表明している事項については踏襲していくこととしたい（既にブランド化されているとの認識を強める）

図表－3 えんげちゃんダンスの特長



(2) ご当地ソング発表について

総合プロデュース先の確定と、オリジナルソング作成過程を融合化させることで、一体的活動となる。したがって、啓発活動、継続による行動変容の結果検証、継続のための地域色、企業色の独自性の提案、イベントの開催予告活動、参加など一連のステップを踏むことでの活動インセンティブが働くことを周知させることが重要である。

6. インセンティブ活動のPR

(1) 具体的な活動例

インセンティブ手法の一つとして、対外的PR活動は重要である。具体的な活動例として以下のような取組を期待したい。

(1) 活動実績の対外発表

①研究活動成果としての学会等での発表による医療関係者等の専門職への告知活動

(2) 大規模イベントへの参加による対象先の拡充

①各地で実施させる健康関係の地域大規模イベントへの出展による活動内容の紹介と実施先の活動の紹介

(3) 積極的なマスコミ投稿

①啓発活動などにマスコミ関係者を招待する

(4) 行政等発行の機関紙等への記事投稿、掲載依頼活動

(5) 健康寿命アワード等への参加

①会員により活動投稿を継続していくことで、健康寿命関係者への認識を高める。

(6) 専門職業界ぐるみの活動の支援要請

①ご当地ソングの地域STとの連携

(7) HP等ITツールを活用した全国規模での活動やコンテンツ紹介

① 活動の最新情報の開示やインセンティブツールの紹介等の実施

(8) 行政との連携による啓発活動の「場」の拡充

①行政が実施している事業イベントでのインセンティブツール活用による啓発活動の実施

(8) 民間企業等との連携による社会貢献スキームとの連携の模索

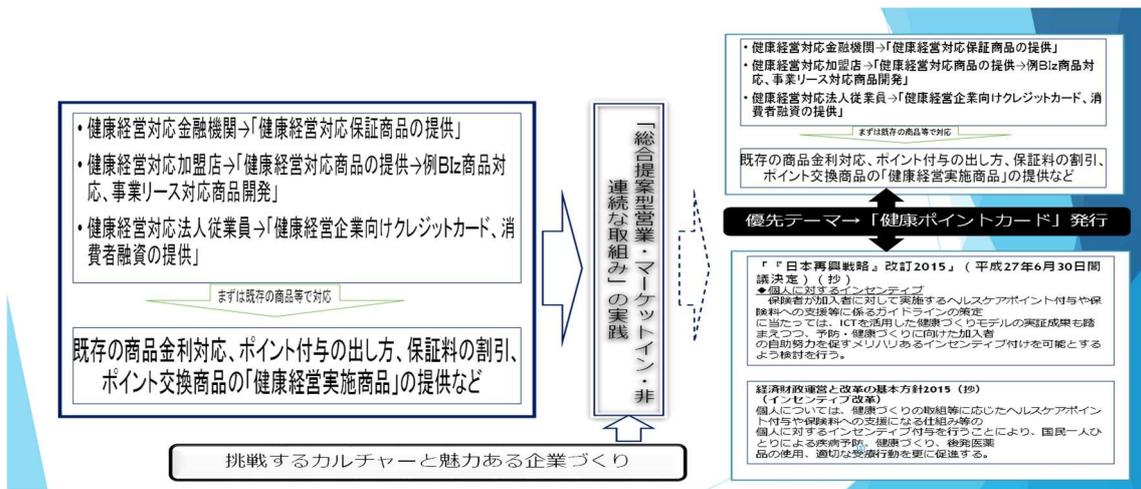
(9) 異業態・異業種との連携による裾野の拡充

(2) 行政施策へのインセンティブ動向に対するツール等のPR活動の実施

①健康ポイント

- ・各地で実施されている健康ポイントカードでの対応メニューとして「誤嚥ゼロプロジェクト」の活動の取り込みを依頼する。
- ・ポイント会社との連携による各行政機関との協業

(参考イメージ例)



① 健康保険組合、国民健康保険

・個別単位で(企業、行政単位)で、健康増進、延伸、誤嚥ゼロなどの健康セミナーの提案

・社会貢献活動としての取組要請

・企業のもつ本業商品・サービスとのタイアップ企画の提案²

・国民保険努力支援制度における都道府県、市区町村へのインセンティブツールとしての販売拡充

② 高齢者保健事業³

・地域医師会、歯科医師会等との連携による、口腔ケア検診と誤嚥ゼロプロジェクト連携による市区町村単位での健康予防活動の実施

・口腔ケア等誤嚥に関するアセスメント等の成果表や収集データの行政との相互乗り入れの実施提案

③ 高齢者大綱⁴

・評価指標等改善のための「誤嚥予防プロジェクト活動成果」の内閣府等へのデータ開示と関係機関との連携

④ 平成30年度厚生労働省予算(案)とのインセンティブ対応接点強化

平成30年度の厚生労働省の予算案のうち、誤嚥ゼロのまちづくりと関係しそうな施策を先に紹介したが、ここでは、誤嚥ゼロのまちづくりを広く告知する視

² インセンティブ手法の調査研究にて、参考事例としてロボットに関する協業についての報告が記載されている。

³ 参考関係資料「参考資料 岡山県津山市の事例、高知県高知市の事例」

⁴ 参考関係資料「高齢社会対策大綱」関係部分(抄)

点からのインセンティブについて整理した。まずは、提示、提案することが肝要である。

図表-4 平成30年度厚生労働省予算(案)とのインセンティブ対応

予算内容	インセンティブ対応
<p>健康寿命の延伸に向けた歯科口腔保健の推進)【一部新規】 7.4億円(4.3億円) ○ライフステージごとの特性を踏まえた歯科口腔保健施策を推進するとともに、自治体等が実施する歯科健診を推進するため、効率的・効果的な健診方法を検証するモデル事業等を実施する。「健康寿命の延伸に向けた歯科口腔保健の推進等医政局歯科保健課(内2583)保険局高齢者医療課(内3192)」</p>	<p>地域歯科医師会、自治体とのスキーム開発協業</p>
<p>保険者の予防・健康インセンティブの取組への支援 1.3億円(1.3億円) ○2020年に向けて、健康長寿社会の実現や医療費の適正化を図るため、経済団体、保険者、自治体、医療関係団体等で構成される「日本健康会議」における、予防・健康づくりのインセンティブを推進する自治体を増やすなどの目標を達成するための取組等の支援を行う。「保険者の予防・健康インセンティブの取組への支援保険局医療介護連携政策課データヘルス・医療費適正化対策推進室(内338)」</p>	<p>口腔機能維持・向上のための予防データの収集活動・実証事業の提案</p>
<p>生涯現役社会の実現に向けた環境整備等 29億円(29億円) ○企業退職高齢者などが地域の中で生活支援のサービスなどを実施し、自らの生きがいがづくり等にも資する活動への立ち上げ支援について、「協議体等の活動を通じて創出された住民主体によるサービス」や「共生の居場所づくり」にも拡充するとともに、引き続き、老人クラブ活動への支援等を行う。「生涯現役社会の実現に向けた環境整備等老健局振興課(内3935)」</p>	<p>所管部署へのPR活動強化と、実績の媒体向けPRの実施</p>
<p>保険者機能強化推進交付金の創設【新規】 200億円 ○市町村や都道府県の高齢者の自立支援、重度化防止等に関する取組を推進するための新たな交付金を創設。</p>	<p>誤嚥ゼロ街づくり活動の提示</p>
<p>高齢者生きがい活動促進事業【拡充】 10百万円 → 34百万円 ○企業退職高齢者などが地域の中で生活支援のサービスなどを実施し、自らの生きがいがづくり等にも資する活動への立ち上げ支援について、「協議体等の活動を通じて創出された住民主体によるサービス」や「共生の居場所づくり」にも拡充する。</p>	<p>・『企業退職者等による健康寿命延伸活動』～企業退職者等の地域誤嚥予防活動による生涯現役社会を目指す事業～案の企業向け提案の強化・地域ごくんリーダー育成プログラムの提供</p>
<p>高齢者の自立支援、重度化防止、介護予防の横展開【一部新規】 56百万円 → 66百万円 ○高齢者の自立支援・重度化防止・介護予防の取組の横展開を図るため、地域ケア会議の活用によるケアマネジメント支援などを推進するとともに、都道府県等への研修会や技術的支援も実施する。 ・保険者機能強化中央研修【拡充】 ・地域包括支援センターが実施するケアマネジメント支援に関する指導者養成研修【新規】</p>	<p>誤嚥ゼロ街づくり活動の提示</p>
<p>小規模社会福祉法人等のネットワーク化の推進【新規】 6.3億円 ○地域共生社会の実現に向け、小規模な社会福祉法人等による地域貢献事業の推進を図るため、複数法人が参画するネットワークを構築し、ネットワーク参画法人による協働事業の試行、これらの事業の実施に必要な合同研修や人事交流等の取組を推進する</p>	<p>共同による誤嚥プロジェクトの実施提案と、医療系専門職派遣による介護報酬の取り込みの提示</p>

実施事業 2. インセンティブを高める手法やツール等の開発

(2) インセンティブを高める仕掛けの開発：

(1) の応用によるツールの開発、地域色を加えた教材等

(ex. 歌って踊れるご当地 SONG 嚥下体操、ウェブサイト「飲み込み 110 番」の活用など)

事業目標

・ インセンティブを高める手法やツール等の開発

継続してセルフケアをきちんと行うことや学んだ知識・体操等を周囲にも伝え、共有の輪を広げていくことにインセンティブが働く仕掛け（手法やツール等）を開発する。又実施状況の確認等成果指標も併せて開発する。

本開発により、健康づくりに熱心でない方や続かない方等への行動変容を促し、セルフケアが身につく事が期待でき、健康寿命の延伸にも貢献できる。

1. 実施事項

先にあげたインセンティブツール開発例のなかで、図表—5 のとおり、ツール分類ごとに作成した。

図表—5 開発したインセンティブツール

ツール分類	作成物
教育支援インセンティブ	誤嚥性肺炎防止「食べるしあわせいつまでも」自分で心得ましょう
	「食べるしあわせいつまでも」心得帖
	誤嚥ゼロのまちづくり上級リーダー養成講習会テキスト概要編
	誤嚥ゼロのまちづくり 「誤嚥編」
	誤嚥ゼロのまちづくり 「栄養編」
	誤嚥ゼロのまちづくりインストラクター教材
	食べるしあわせいつまでもカレンダー—医学的解説書
活動成果支援インセンティブ	配食関連事業者向け「食べる力」チェックリスト
日常誤嚥予防活動支援インセンティブ	世界のえんげちゃんと一緒に「ダンス、楽曲・歌詞」
	「食べて おどって 歌って」甲斐援隊「ダンス、楽曲・歌詞」
	食べるしあわせいつまでも「ダンス、楽曲・歌詞」
地域間競争インセンティブ	ご当地ソング発表会提案
	ご当地ソング事例「山梨」「宮城(仙台)」

先にインセンティブ用のツールを検討していくと、以下のように分類したが、分類カテゴリーに合わせて作成した。

① 教育支援インセンティブ⁵

人材育成の分類から「インストラクター用」の教材や講習会支援ツール、上級リーダー用として、上級リーダーの絶対数を増やすために、地域ごくんリーダーの成長スタイルを意識した教材を作成し、かつ「教える」ためのツールを「レッスンプラン」を策定して、より実務的に利用可能な教材を作成した。また、一般住民が気楽に「誤嚥予防のまちづくり」を広めるための冊子を作成し、誤嚥とは何かをはじめとした基礎的理解の促進のため、HPの飲み込み110番の基礎知識を補完する内容を作成した。

また、インストラクター教材は、よりわかり易く専門的な内容が一般住民に伝えやすいようにした。複数の参考教材を作成することで、啓発活動や養成研修時に「わかりやすく」伝える工夫が上級リーダー、インストラクター自身で実施できる教材の開発ができた。

② 活動成果支援インセンティブ

配食事業者の事業の対象が高齢者であり、食べることに對する接する機会を捉えた普及活動の必要性から、配食事業者が自分の事業と連携できるチェックリスト⁶を作成、配布することとし、インセンティブツールとして開発した。

③ 日常誤嚥予防活動支援インセンティブ

今回、オリジナルソング・ダンス(オリジナル嚥下体操・ダンス)として3曲を開発した。今後の制作に関して多くの人があるノウハウを活かすため、作成のステップ等留意事項を公開する。

1) 作曲、編曲に当たって

* 医学的根拠となる要素を盛り込んだ歌詞と体操を「音楽とダンス」で表現する新しいジャンルと考えている。

【楽曲作成の手順】

1. 歌詞（あるいは言葉の羅列）と曲イメージを伝える（嚥下体操の説明もする）：打ち合わせ1回目
2. 作曲（提案して頂く）
3. 良いものなら振り付け、歌詞、曲の3者をまとめる合同打ち合わせ2回目

⁵ 今回作成の具体的な教育支援インセンティブツールについては、参考資料1参照

⁶ 具体的なチェックリストは参考資料2参照

4. 2回目打ち合わせを反映して作曲完成へ
5. 良いものなら、歌・編曲へ
6. 体操曲完成 MP3 データ、カラオケ、楽譜納品

【曲調について】

一度聴いたら耳に残り、口ずさみたくなるようなわかりやすいメロディラインとサビ、長いフレーズ。

対象者に好まれ、覚えやすい。振り付けについていけるスピード、リズム

対象者は高齢者、介護予防該当者、但し広げていく過程で子供や学生経由も考える。

事例)

1. 明日に輝け！八王子⁷（太陽おどりのようなレトロでパワフルな歌謡曲風）
ねらい：嚙下機能向上＋全身運動効果をめざした介護予防体操
身体を大きくゆっくり動かし、「筋肉を伸ばすこと」、「持久力」を目的とする
* 八王子太陽おどりととは：
八王子市民に愛され、老若男女みんなが歌って踊れる（新八王子音頭）
（作編曲：いずみたく、歌：佐良直美）お祭りやイベントで必ず流れるソールミュージック。
2. きゃりーぱみゅぱみゅ編（きゃりーぱみゅぱみゅ、Perfume（パフューム）の楽曲のようなノリのよいポップで踊りだしたくメロディと繰り返しによる覚えやすいサビ
（にんじゃりばんばん、チョコレートディスコ等）
ねらい：嚙下体操に特化した振り付け、歌詞

【医学的視点からお願いしたいポイントや参考点】

1. コール&レスポンスができる部分を入れる。
初めて聞いた方でも一緒に声を出せるようにする。
2. 「ぱ」「た」「か」「ら」「な」「さ」行の音（唇、舌の動き）が嚙下体操に有効なので歌詞で多用する。
3. 口を大きく動かすことが有効なので、「あー」の次に「うー」や「おー」、「いー」「えー」から「うー」など大きく口開けて、すぼめるを繰り返す、口をすぼめて横に引くを繰り返す等が有効
4. 「ぱ」「た」「か」「ら」は「ぱぱぱぱぱ」「らったたー」等同じ音を重ねたり、「ぱたから」と続けて発語することも有効
5. 母音だけでなく、子音も大事。

⁷ 概要について、平成 26 年度事業にて作成した楽曲・歌詞内容について「飲み込み 110 番」<https://engechan.com/activity/action2016> 参照

6. 長いフレーズで一息で長く声をだせるように。肺活量アップにつながる。
7. 高音から低音、低音から高音と旋律に合わせて歌うことがのどの訓練になる。
7. 咳払い「えへん」「えい」、強く息を吐く「ふっ」「ほっ」「はっはっ」等も有効
8. 早口ことばは有効

使用者が対象者のレベルや好みなどに合わせて適宜選べるように色々用意する。

【その他】

- * 全部通しで使用しなくても、例えば1+サビのみ使用等一部の取り出し使用もある。
- * 体操は立って行うバージョン、座って行うバージョンの2種類用意する

2) オリジナルダンスの歌詞

オリジナルスタンダード版として「世界のえんげちゃんと一緒に」、ご当地ソングとして山梨県を対象とした「食べておどって歌って 甲斐援隊」、宮城県の仙台市を対象とした「食べるしあわせいつまでも」を創作した。以下、各曲の歌詞の一部を紹介する。

a) オリジナルスタンダード

☆世界のえんげちゃんと一緒に☆

*** 歌詞原文 ***

えんげちゃんがたべるよ
 世界中のお友達と一緒に
 るんるん ランラン 集まって
 ~るんるん、ランラン 集まって (コール&レスポンス)
 ゆっくり 楽しく おだやかに
 さあ みんなで おいしく食べよう
 かたいお肉 たくあん すし おこわ
 ~かたいお肉 たくあん すし おこわ~ (コール&レスポンス)
 最後は ワインを いただきます

☆世界のえんげちゃんと一緒に☆

*** 楽曲をつけた場合 ***

<前奏> (パッパ-パパパッパ パパパパパパ
 パタカラパ パタカラパ パパ パパパパ パタカラパー)

えんげちゃんがたべるよ
世界中の（パバパバパバ） お友達と（タタタタタ）
るんるん ランラン 集まって
～るんるん、ランラン 集まって（コール&レスポンス）
（パータカラパバパ パータカラパバパ）
ゆっくり 楽しく おだやかに
みんなで おいしく食べよう
かたいお肉 たくあん すし おこわ
～かたいお肉 たくあん すし おこわ～（コール&レスポンス）
最後は ワインを いただきます
<間奏>（パッパパーパパパッパ パパパバパバパバ
パタカラパ パタカラパ パパ パパババ パタカラパー）

b) ご当地ソング

今年は山梨と仙台市のご当地ソングを作成した。

☆「食べて おどって 歌って」甲斐援隊☆

山梨県の方言を取り入れて作成した

えんげちゃんがたべている
甲斐援隊のお友達と一緒に
るんるん ランラン よってけし（方言→寄っておいで）
～るんるん、ランラン よってけし～
パチパチ ピカピカ てて てて（方言→ かなりびっくり、本当にびっくり）
さあ みんなで おいしく食べましょう
信玄もち ほうとう とりもつ煮
～信玄もち ほうとう とりもつ煮～
最後は ぶどうを いただきます

☆食べるしあわせいつまでも☆

仙台市の情景を中心に歌詞をつけ、病院の患者での対応もできるような楽曲とした

嚙下の歌声 ひびく 青葉路（あおばみち）
かなたに見える 松島は
みんなの自慢の たからもの
牛タン 温メン キラキラ丼
飲み込む前に ひと踊り

(飲み込む前に ひと踊り)
パタカラ声も 聞こえてくるよ 広瀬川

- 3) オリジナルソング・ダンス(オリジナル嚙下体操・ダンス)の今後の展開
a) オリジナルスタンダード

世界のえんげちゃんと一緒に

誤嚥ゼロのまちづくりの啓発活動において、応援ソングとスタンダードのダンス・体操として一般住民への最初の導入曲として展開していく。

- b) ご当地ソング

☆「食べて おどって 歌って」甲斐援隊☆

山梨県の誤嚥ゼロのまちづくり活動を担っている「学生ボランティア団体の甲斐援隊」を中心に山梨県での啓発活動等際して、育成した 60 名余の上級リーダーが、地域ごくんリーダー育成や一般住民向け啓発活動に利活用していく。

☆食べるしあわせいつまでも☆

宮城県仙台市の情景を意識した楽曲・歌詞内容である。

2018 年度宮城県仙台市で開催される「日本摂食嚙下リハビリテーション学会」において、学会出席者（医師、医療・福祉・介護系専門職、その他登録会員）の交流会での発表した。学会主催大学の東北大学との共同による振り付け等の実施も行ったことで、誤嚥予防の支援の側面だけでなく、言語障害等入院患者向けの対応も取り込んだ内容から、新たな領域での対応が期待される。

④ 地域間競争インセンティブ

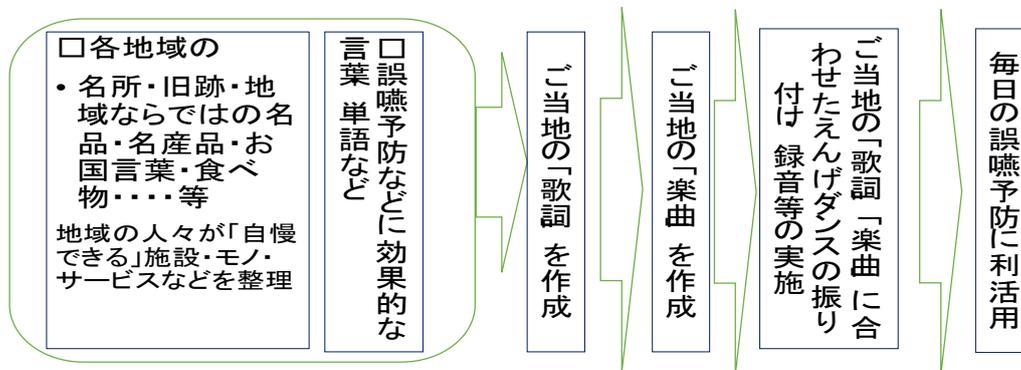
2016 年度よりスタートしたご当地ソング型オリジナルソング・ダンス(オリジナル嚙下体操・ダンス)は、誤嚥ゼロのまちづくり啓発活動の醸成に極めて効果的であることがわかった。

広報活動と一体となって、今後展開していくためのツールとして、「ご当地ソング型 えんげちゃんダンス」の創作と発表会の提案ツールを作成し、地域や企業・行政機関等へ広げていく。以下は各地でご当地ソングを作成するための導入提案と発表会参加のための案内提案書である。

ご当地ソング型 えんげダンスについての創作・発表会について

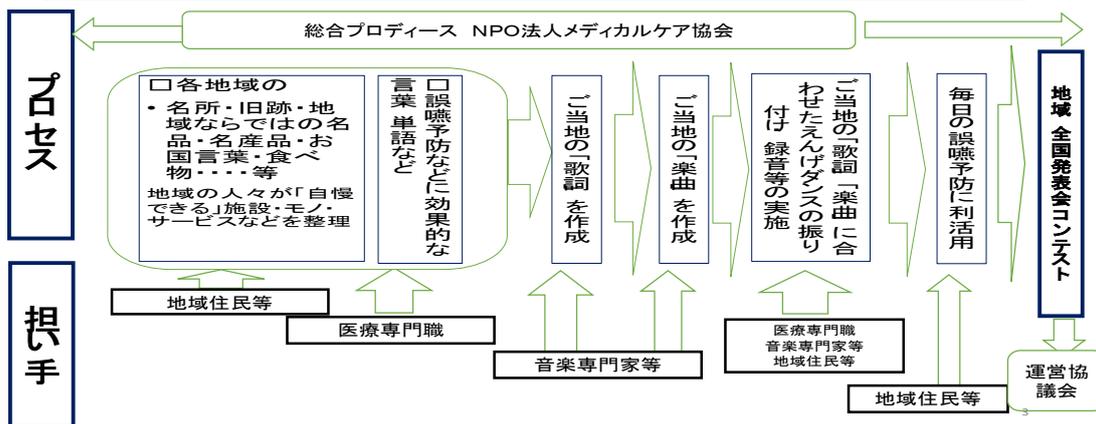
2018年
NPO法人メディカルケア協会

ご当地ソング型えんげダンスとは



*ご当地とは、都道府県、区市町村、町、丁、番などで一定の組織構成員が集まった地域団体、企業、自治体等を指す。

作成プロセスと担い手



具体的な事例(楽曲・ダンス編)

八王子地域

明日へ輝け！八王子体操
 <前奏>リズムにのって肩を上げ下げ×4回
 1. ああ～ほくらの街 八王子
 左腕を内回し斜め上で止め、下ろす 右腕を内回し斜め上で止め、下ろす 両手内回し斜め上で止め
 自然は かがやく
 手を回しながら、高く上げていく
 手を上げ
 左手を前に伸ばし、左に開く、右手を前に伸ばし、右に開く
 高尾山 陣馬山 走るよ一緒に京王線
 上部体幹を左回旋、右回旋 両腕を振って足踏み(走るポーズ) 拳を左・右・左で突き上げる
 春夏秋冬の うつろいは なんて美しい かざぐるま
 頭を左回旋・右回旋 頭を左傾・右傾 頭を上向き・下向き 頭を左回してぐるっと回す(手は腰)
 はあ～バンバン みんなで(バンバンバン)
 手のひらを左・右交互に前に突き出す ×2回 そのまま両手でワイパー動き 声も「バンバンバン！」
 はあ～バンバン みんなで(バンバンバン)
 手のひらを左・右交互に前に突き出す ×2回 そのまま両手でワイパー動き 声も「バンバンバン！」

山梨県地域

「食べて おどって 歌って」甲斐援隊
 えんげちゃんがつたえている
 甲斐援隊のお友達と一緒に
 るんるん ランラン よってけし(方言一寄っておいで)
 ～るんるん、ランラン よってけし～
 パチパチ ビカビカ てて てて(方言一 かなりびっくり、本当にびっくり)
 さあ みんなで おいしく食べましょ
 信玄もち ほうとう とりもつ煮
 ～信玄もち ほうとう とりもつ煮～
 最後は ぶどうを いただきます

4

トライアル ご当地ソング型えんげダンスの創作展開例ステップ

・ご当地ソング型えんげダンス希望者募集

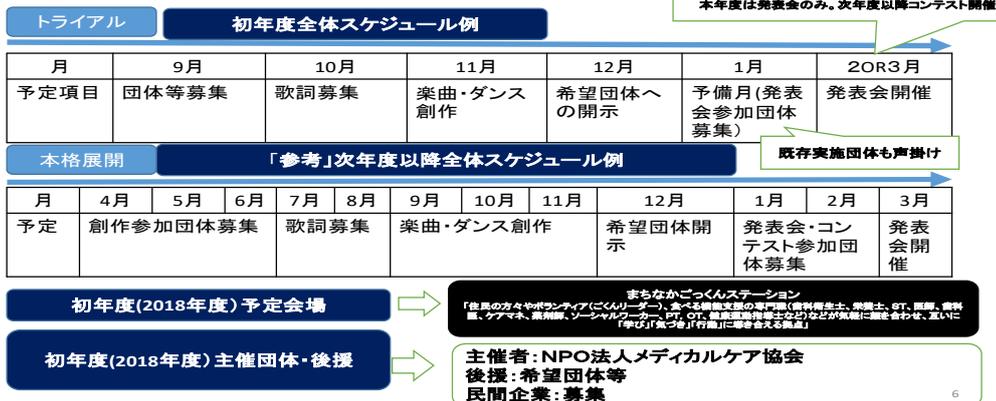
実施地域・団体決定

その後の手順

1. ご当地ソング楽曲はNPOメディカル協会保有楽曲から提供のカラオケで統一(使用料負担有り)
2. 歌詞は、言葉を出してもらって(参加希望会食会のボランティアなど)→作詞家へ作成依頼(外部委託)
3. 歌詞の誤下対応の補正を医学的専門職へ依頼
4. 歌は会食会参加者などの高齢者でうまい人たちが歌う(もしくは希望者募集でも可)
5. 録音は静かなところで会食会が実施(サポートはメディカル協会でも良いが機材対応は実費負担)
6. ダンス振り付けは、NPOメディカルケア協会で初期作成。
7. 楽曲・歌詞・ダンスとの適合性は住民、NPOメディカルケア協会、医学専門職と協働
7. ダンス踊り手は地域住民参加者で可。「地域学生チア等」に応援での対応も地域で検討・協議可。
8. 映像は、各会食会等で撮影(特に映像かしくなくても良い)。撮影については実費負担

- * 歌詞、ダンスの医学的専門職サポートは各地のST会等
- * トライアルにおける実費負担は個別相談。その他労力は参画者各自負担
- * 著作権等権利関係は別途参加者にて協議(但し、外部委託関係者はその当事者)

ご当地ソング型えんげダンスの発表の会・コンテスト展開例



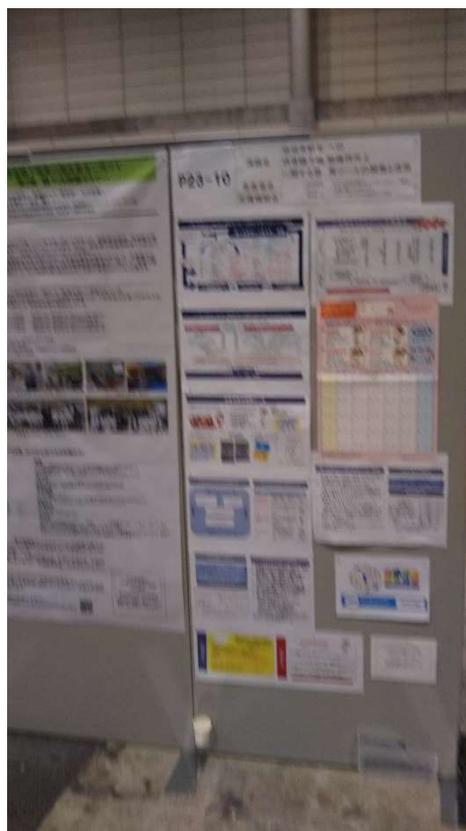
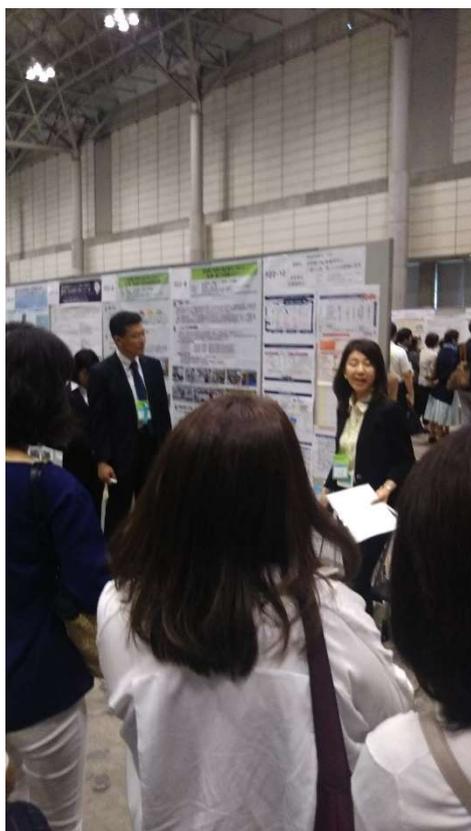
⑤ インセンティブ関連活動（PR活動）

1) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会

2017年9月15日、16日、第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（於：幕張メッセ）にて、2演題（口頭、ポスター⁸）発表し、多くの方からお問い合わせなど大きな反響を呼んだ。

上記学会は、日本の摂食嚥下に関する学会の中で、最も権威のある学会で、国際的にも評価されている。会員は医師、歯科医、言語聴覚士、看護師、歯科衛生士、介護福祉士、薬剤師など多職種にわたり、所属機関も大学、病院、介護施設、在宅系などさまざまであることから、本事業の成果を発表することにより、波及効果が高いと考えられた。学会で採択された内容であることから、摂食嚥下に関わる専門職が学術的視点で本事業の有効性を知ることになり、各専門職が自分の所属機関に取り入れるインセンティブ効果になると考えられた。各地ではっぴいごくんプロジェクトが展開されることを期待したい。

『活動の様子』



⁸ 学会発表資料については、参考資料3参照

2) 地域の方々との連携（インセンティブツールの開発）

インセンティブを高めるツールとして「ご当地 SONG 嚙下体操」を開発・広めていくには、地域の特性を理解し、伴走してくれる地元の方々の協力が不可欠となる。そこで、医学的な専門家視点として山梨県言語聴覚士協会、啓発活動の担い手として山梨県学生ボランティア「甲斐縁隊」と連携して進めることとした。

山梨県学生ボランティア「甲斐縁隊」には、本事業と関連する医療、福祉、栄養、教育分野を専攻している学生が多く所属していたことから、そうした学生が高い関心を寄せ、彼らを中心にコラボチームが編成され、開発や啓発活動の大きな手助けとなった。開発から携わることで、彼ら自身のモチベーションも上がり、啓発活動の動機づけにもなった。

山梨県のご当地嚙下体操ダンスとして2種類、山梨版えんげちゃんダンス（八王子版の替え歌「明日に輝け！甲斐の国」）と甲斐縁隊版えんげちゃんダンス（オリジナル新体操ダンス「食べて踊って歌って 甲斐縁」）を作成し、これらの嚙下体操ダンスを活用しながら普及啓発活動を行っていく。

より一層、啓発活動へのインセンティブを高めるため、これら山梨ご当地えんげちゃんダンスの内の1曲を甲斐縁隊会員からなる合唱隊の歌で録音した。ディレクションはえんげちゃんダンス楽曲を提供頂いた東京音楽大学⁹の先生に依頼した。



えんげちゃんダンスの楽しさが伝わるように気持ちを込めて歌いました

⁹ 東京音楽大学 <http://www.tokyo-ondai.ac.jp/>



撮影も行いました



体操もしっかり習得しました



子ども広場で発表会

3) HPのリニューアル

飲み込み 110 番「<https://engechan.com/>」のコンテンツを充実させて、誤嚥ゼロのまちづくりのためのインセンティブツールとしての位置づけが確立された。

(1) サイトマップ

[「誤嚥」を知る](#)

[嚥下とは](#)

[誤嚥とは](#)

[窒息、低栄養、脱水](#)

[自分の状態を知ろう](#)

[日頃から気をつけておきたいこと](#)

[食べる力を鍛えよう](#)

[誤嚥ゼロのまちづくり](#)

[はっぴいごくんプロジェクト](#)

[誤嚥ゼロのまちづくり 3 カ条](#)

[2017 年度活動](#)

[2016 年度活動](#)

[活動ツール](#)

[啓発アニメ](#)

[えんげちゃんカレンダー](#)

[オリジナルご当地えんげ体操作成支援](#)

[講演会・セミナー](#)

[えんげちゃんダンス](#)

[各種活動支援ツール](#)

[商品一覧](#)

[事務局だより](#)

[普及啓発活動](#)

[人材の育成](#)

[お知らせ](#)

[Q&A](#)

[お申込みフォーム](#)

[個人情報保護方針](#)

[特定商取引法に基づく表記](#)

(2) コンテンツ紹介 (一部抜粋)

2018.02.08

[最近むせたり、飲み込みにくく感じることはありませんか？](#)

2018.02.03

[サイトがリニューアルオープンしました。](#)

2018.02.02

[3月17日（土）に啓発イベント開催](#)

2018.02.02

[3月10日（土）に啓発講演会を開催](#)

2018.02.02

[3月3日（土）に啓発イベント開催](#)

トピックス

[はっぴいごくんプロジェクト](#)

活動背景 活動概要 活動内容 はっぴいごくんプロジェクト活動の背景 食べる事は誰もの楽しみですが、年齢を重ねると、口腔・咽頭周りの筋肉や反射も衰え始め、むせや飲みこみづらさ（嚥下機能低下）を感じること …



[2017年12月9日 朝日新聞](#)

神奈川県横須賀幼稚園とのコラボによる誤嚥予防啓発イベントが朝日新聞に紹介されました。多世代交流による啓発活動も行っています。朝日新聞 平成29年12月9日 承諾番号 18-0071 朝日新聞社

[2017年5月19日 神奈川県三浦連合耳鼻咽喉科医会学術講演会で講演](#)

5/19(土)神奈川県横須賀市で開催された「三浦連合耳鼻咽喉科医会学術講演会」で『嚥下機能の大切さを広める一方法について～地域の人と楽しく歌って踊って～』と題して、講演させていただきました。…

[2017年7月21日 避難所でもえんげちゃん体操を！](#)

7月21日(土)つくば市の国立研究開発法人 防災科学技術研究所で、認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズに主催による「福祉避難所開設研修会」にて、「避難所のバリアフリー化と『NPO型福祉避難所』を考えよう」をテーマに講演を行ってきました。…

実施事業 3. 人材の育成（教材作成、講習会開催等）

(1) インストラクターの養成（養成教材作成、講習会開催等）講習会は 9 月に 1 回開講

(2) 上級リーダーの養成（養成教材作成、講習会開催等）

講習会開催場所候補地：八王子市、甲斐市、藤枝市、新宿区、横須賀市
各 1 回開講（計 5 回）

事業目標

・積極的に啓発活動を推進する人材の育成

新たに①インストラクター（歯科衛生士、言語聴覚士、教員など医療・介護・教育専門職。啓発活動で講演や体操指導、上級リーダー研修等を行う教育役）と②上級リーダー（日々の地域活動で中心となる推進役。基本知識・体操を習得する）を新設し、啓発活動の担い手の知識・体操技術の向上と活動の浸透・拡充のための人材を確保する。（各 20 名以上）。

インストラクターには資格を持ちながら就業していない方、上級リーダーには前期高齢者等を起用し、新たな活躍の場を創出することも期待できる。

1. 実施事項

(1) 養成教材作成

人材育成のツール作成については、先に述べたように今回下記の教材等を作成した。今回の育成過程で、従来 of 成果物を利活用した教材等で講習会を開催した。今後の発展的展開においては、今回育成の人材を誤嚥ゼロのまちづくりを広げていく中核人材として位置づけて、「学ぶ」から「教える・支援する」ための教材として制作した。次年度以降において本年度制作の教材¹⁰の活用が期待できる。

図表—6 教育支援インセンティブ

ツール分類	主な対象者	作成物
教育支援インセンティブ	一般住民	誤嚥性肺炎防止「食べるしあわせいつまでも」自分で心得ましょう
	上級リーダー	「食べるしあわせいつまでも」心得帖
		誤嚥ゼロのまちづくり上級リーダー養成講習会テキスト概要編
		誤嚥ゼロのまちづくり「誤嚥編」
		誤嚥ゼロのまちづくり「栄養編」
	インストラクター	誤嚥ゼロのまちづくりインストラクター教材
インストラクター	食べるしあわせいつまでもカレンダー-医学的解説書	

¹⁰具体的な作成教材等は参考資料 1 で確認願いたい。

(2) 人材育成 「インストラクター養成」

1) インストラクター育成

インストラクターの役割、養成予定人数、要件については、啓発活動で行う講演や体操指導、上級リーダー研修等を行う教育役である。具体的には主に医師、歯科医、歯科衛生士、言語聴覚士、看護師、管理栄養士、介護福祉士、健康運動指導士、薬剤師、教員などの医療・介護・教育関連資格保有者で、インストラクター養成教材の内容を習得した方（同等の知識や習得状況により当法人が教育役として認めた方も含む）。資格を持ちながら就業していない方々の新たな活躍の場としても有意義と考えられる。当初の養成人員は20名を予定とした。

2) 実施にあたり

誤嚥ゼロのまちづくりにおいて、医療系等の専門職の活躍は、従来の医療現場だけでなく、予防活動の領域での活動が重要である。

そのため、前述のように専門職用の教材の作成を実施したが、本年度は、学んだ知識や経験を生かして「発表の場」を設定して、活躍の実証を行ったことで研修結果や効果が確認できた。今後は、育成のための研修に加え、新たな実証の場を広げていく活動も強化していくこととした。

したがって、本年度は「多数の地域」で育成するだけという発想から、養成した人材を利活用することができる環境づくり（実践の場づくり）をとともに実施できる団体を中心に活動した。人材育成と地域住民開発活動がリンクした形の対応であったが、今後の多くの地域での展開における実証として有効的な手法であった。以下2つの実証事例を報告する。

2) インストラクター養成研修

図表—7 インストラクター養成研修

インストラクター養成研修		
連携先	医療法人社団永生会	横須賀幼稚園
開催場所	八王子	横須賀幼稚園
参加者	永生会グループ病院等所属言語聴覚士19名	横須賀幼稚園教員20名
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> - はっぴいごっくんプロジェクトの理解 - 活動ソールの理解、使い方 - 体操実技の習得 - 指導のポイント 	<ul style="list-style-type: none"> - はっぴいごっくんプロジェクトの理解 - 基礎知識の習得 - 活動ソールの理解、使い方 - 体操実技の習得 - 指導のポイント
研修参加の目的	<ul style="list-style-type: none"> - 八王子健康フェスタでのPR活動 - 日常業務での応用 	<ul style="list-style-type: none"> - 園児教育 - 園児ご家族との交流（祖父母への誤嚥予防啓発） - 地域貢献活動（地域高齢者への啓発）の担い手など
研修後の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> - 日常業務での継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> - 園児への健康教育 - 園児への体操指導 - 園児祖父母会の実施（2回：12/5、8） - 祖父母への健康教育講習、園児と一緒に体操実演指導） - 年間行事として継続実施 - 「園便り」を通じた健康教育

① 医療法人社団永生会との連携

東京都八王子市の中核病院である医療法人社団永生会¹¹の協力を得て、同病院所属の言語聴覚士を中心に、誤嚥ゼロのまちづくり活動の一環として、八王子健康フェスタでの誤嚥ゼロのまちづくりのためのツールの紹介と、啓発活動のための事前研修を実施した。19名の言語聴覚士がインストラクターとして登録。

また、実施した研修結果を、医療法人社団永生会の地域活動、リハビリ活動紹介の場において、嚥下関係のアニメーション放映を実施して啓発活動をおこなった。

エスフォルタアリーナ八王子において誤嚥予防ダンス「明日へ輝け！八王子」を中心に研修にて会得した「オリジナルソング体操のえんげちゃんダンス・体操」を市民参加のもとに活動した。

インストラクターとして学習した言語聴覚士と一般住民の参加者との誤嚥予防ダンスは、大いに盛り上がり、誤嚥予防の啓発活動に大きなインパクトを与えた。

当日、医療法人社団永生会安藤理事長のご支援により、八王子市長をはじめ、多くの八王子市の関係者と本運動の意義を紹介することができた。

図表－8 医療法人社団永生会の療法師

施設名	種別	理学療法士(PT)	作業療法士(OT)	言語聴覚士(ST)	合計
永生病院	管理者・教育士長	2	1	1	4
	一般内科病棟	13	5	5	23
	回復期リハビリテーション病棟	18	18	9	45
	療養病棟	8	5	7	20
	整形外科病棟	9	1	0	10
	精神科病棟	1	3	0	4
南多摩病院	入院(急性期)リハビリ-外来リハビリ	20	6	5	31
永生クリニック	外来リハビリ	16	4	2	22
クリニック0(ゼロ)	通所リハビリ	2	0	0	2
スマイル永生	通所リハビリ	1	0	1	2
イマジン	入所リハビリ・通所リハビリ	5	6	1	12
マイウェイ四谷	入所リハビリ・通所リハビリ	6	3	2	11
オネステイ南町田	入所リハビリ・通所リハビリ	7	3	1	11
訪問看護ステーション とんぼ・めだか・ひばり・いるか・口笛	訪問リハビリ	10	5	3	18
地域リハビリテーション支援事業推進室		1	1	1	3
高次脳機能障害支援推進室		0	0	1	1
研究開発センター		1	0	0	1
法人本部リハビリ統括管理部		3	1	0	4
合計		123	62	39	224

2014年9月現在

出所：医療法人社団永生会HPより

¹¹ <http://www.eisei.or.jp/>参照

『活動の様子』



② 横須賀幼稚園

横須賀幼稚園¹²は明治 36 年横須賀市に創設された 100 年以上の歴史を有する幼稚園である。

今回、同幼稚園にて、子供から大人まで誤嚥ゼロのまちづくりの活動を実施した。

幼稚園教諭のインストラクター研修を実施して、誤嚥予防ダンスの普及を兼ねて園児へ指導を実施、「園児の祖父母」を幼稚園に招待して、発表の場を設けた。結果、多くのマスコミ等に取り上げられた。¹³

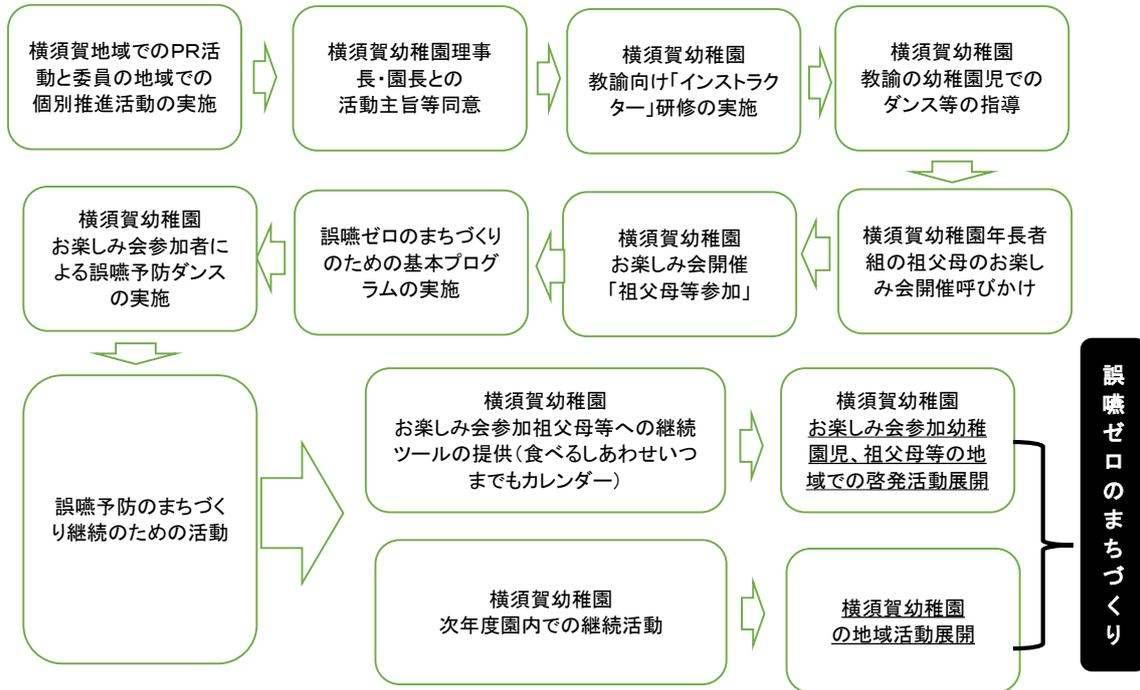
横須賀幼稚園鈴木理事長の今後の展開についての方向性は、地域との接点をさらに深めていく活動を実施していきたいとのことである。

今回の活動は「インストラクター養成」「幼稚園児へ指導を通じたボランティア精神の醸成（学んだダンスを地域の介護施設等に訪問して発表する）」「継続的展開（参加者祖父母等の地域での啓発活動）」「孫世代のえんげ体操等の予防活動に対する祖父母への励ましによる健康寿命の延伸」「公的機関といえる幼稚園での活動の地域への影響度」「マスコミ等の取り上げなどによる地域関係機関等からの照会」など多くの活動上の成果がでた。

¹² <http://yokosuka.ed.jp/index.html> 参照

¹³ 詳細は「飲み込み 110 番」参照

図表－9 横須賀幼稚園での活動プロセス



『活動の様子』



保母さんへの研修会



園児たちと一緒に祖父母会を通じた活動

(3) 人材養成「上級リーダー」

1) 上級リーダーの役割と養成予定人数

はっぴいごくんリーダーは自らが学び、「気づきの重要性」を個人的活動の中で身近な周囲の方々に伝えていくことが主な活動となるが、上級リーダーは、はっぴいごくんリーダーの中から、活動自体を広めていくことにも貢献して下さる人材であり、はっぴいごくんリーダーのまとめ役として、又日々の地域活動で中心となる推進役を担う。(20名)

具体的には主に高齢者サロン、会食会、学生ボランティア、健康づくりサークル、自治会、商店街など日頃から積極的に地域で活動を行っている方々を想定し、前期高齢者等の新たな活躍の場としても期待できると考えた。

2) 上級リーダーの要件

- ・既存の地域活動団体の代表者や代表の推薦者など、活動基盤となる住民組織やボランティア組織などを持っている方、所属している方で、日常的に行っている地域活動を通じて活動基盤や連携先への本プロジェクトの普及を手伝って下さる方

- ・摂食嚥下機能に関する基礎知識を学び、嚥下うた体操ダンスを住民等に教えることができる方

3) 上級リーダーの発掘の仕方

「上級リーダー」は既存の地域活動団体の代表者や代表の推薦者、元民生委員、地域の世話役など、活動基盤となる住民組織やボランティア組織などがある方を中心に声掛けを行い、育成し、日常的に行われている地域活動を通じて地域の高齢者へ啓発活動を行うルートを確立していく。特に高齢者サロン、会食会、学生ボランティア、健康づくりサークル、自治会などは最適な対象となる。

4) 結果

こうした上級リーダーに関する条件等を踏まえ、本年度は山梨県を中心に実施して、合計83名の上級リーダーを育成することができたと同時に、上級インストラクターを中心に地域住民等への啓発活動を実施した(詳細は地域住民啓発活動参照)。

5) 上級リーダー研修実施内容

図表—10 上級リーダー研修状況

上級リーダー研修							
連携先	甲府・食事サービスをすすめる会 (配食サービスボランティア団体)	山梨県学生ボランティア「甲斐縁隊」 県内学生ボランティア団体 (福祉、環境、子供、教育分野等で活動)					
開催場所	甲府市総合市民会館		第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
			山梨県立大学		甲府市中央公民館		
参加者	スタッフ、 地域世話役、地域団体代表、 民生委員など 15名	合計 68名	医療・福祉・教育関連学部 大学生7名 (当法人とのコラボの中心メン バー) 他1名(地域団体代表)	会員11名	会員22名 他1名 (地域団 体代表)	会員8名	会員18名
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・はっぴいごっくんプロジェクトの理解 ・基礎知識を学ぶ ・活動ツールの理解、使い方 ・体操実技の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・はっぴいごっくんプロジェクトの理解 ・基礎知識を学ぶⅠ、Ⅱ、Ⅲ(言語聴覚士による講演) ・活動ツールの理解、使い方 ・体操実技と指導ポイントの習得Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ ・活動ツールづくりⅤ 					
研修参加の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への継続的健康教育 ・スタッフへの継続的健康教育 ・地域高齢者への啓発活動の担い手など 	当法人と連携して、上級リーダーとして活動していくため					
研修後の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への継続的健康教育 ・スタッフへの継続的健康教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修会の開催 ・ご当地ソング体操を連携して制作 ・地域イベントでの啓発活動を連携して実施 山梨ねんりんピック(9/30) 子ども広場(11/26) など 					

① 甲府・食事サービスをすすめる会

配食サービスボランティア団体である甲府・食事サービスをすすめる会は、昨年度啓発活動を実施したが、本年より多くの人々に誤嚥予防について伝えたいとの要望から、今回伝えるための研修を実施した。

参加者は、配食事業に直接関わっている人に限らず、地域の世話役、地域団体代表者や民生委員など地域を代表する人たちの参加で、地域での展開が期待される。

また、当日は、配食サービスの総会もあったことから、「甲府市の地域包括センター関係者」や山梨県ボランティアセンターも参加され、特にえんげ体操については、興味を持ってリーダー研修参加者と一緒に実演された。

② 山梨県学生ボランティア「甲斐縁隊」

2016年度住民参加型普及啓発活動の実践(無料セミナー、イベント等開催)に、山梨県内の学生ボランティア「甲斐縁隊」と山梨県ボランティア協会の協力で、誤嚥ゼロのまちづくり「はっぴいごくんプロジェクト」の啓蒙活動を実施した(実施の全体概要は図表—11参照)が、前回の目的は、「多世代での活動支援について」の若い世代の取組みについての反応と今後継続的にはっぴいごくんリーダーとして活動が可能かの確認を実施して大きな成果を得ることができた。

図表—11 2016年甲斐縁隊の実績

	山梨県学生ボランティア「甲斐縁隊」
開催日時	2016/9/11(日)
開催場所	山梨県立大学
連携先	山梨県学生ボランティア「甲斐縁隊」
連携先活動内容	山梨県内大学学生ボランティア団体(福祉、環境、子供、教育など)
主な参加者	山梨県学生ボランティア甲斐縁隊 山梨県ボランティア協会
参加者の属性	大学2年生(医学部、福祉系、その他) 障害者、山梨県ボランティア協会職員
参加者数	大学2年生13名、障害者2名 山梨県ボランティア協会職員2名
実施内容	・事業趣旨説明 ・講義 ・チェックシート、簡易検査による「食べる力」チェック ・嚥下うた体操ダンス ・摂食嚥下に関する調査
専門職	薬剤師、社会福祉士
目的	・多世代が関わる啓発活動 ・ごくんリーダー募集 ・人材発掘、育成

出所：誤嚥ゼロのまちづくり「はっぴいごくんプロジェクト」報告書2017年3月

特定非営利活動法人 メディカルケア協会

こうした実績を踏まえて本年度は、共同による誤嚥ゼロのまちづくり活動(メディカルケアコラボプロジェクト)について展開した。

その主な内容は以下の内容である。

- 1) 甲斐縁隊メンバーの地域ごくんリーダーから上級リーダーへの昇格による誤嚥に対する専門的知識を深める(メンバーの多くが栄養関係や医療福祉関係の学部等のため、基本知識はある)。
- 2) 山梨県全土に広めるために本年度は甲斐縁隊を中核にすすめる。
- 3) 誤嚥に対する実践的な内容の取得は従来からの活動領域を拡充するので、より実践的な内容まで関与したい(協力したい)意向から、オリジナルソングについて創作活動に関係する。
- 4) 従来関わった活動に誤嚥予防のためのプログラムを採用して活動を拡充していく。
- 5) その他山梨でのオリジナリティを出すための活動

本章では、人材育成の上級リーダー研修についての活動結果を報告する。

(1) 知識の習得のための基本教材

①甲斐縁隊独自の地域ごくんリーダー育成レジュメの作成

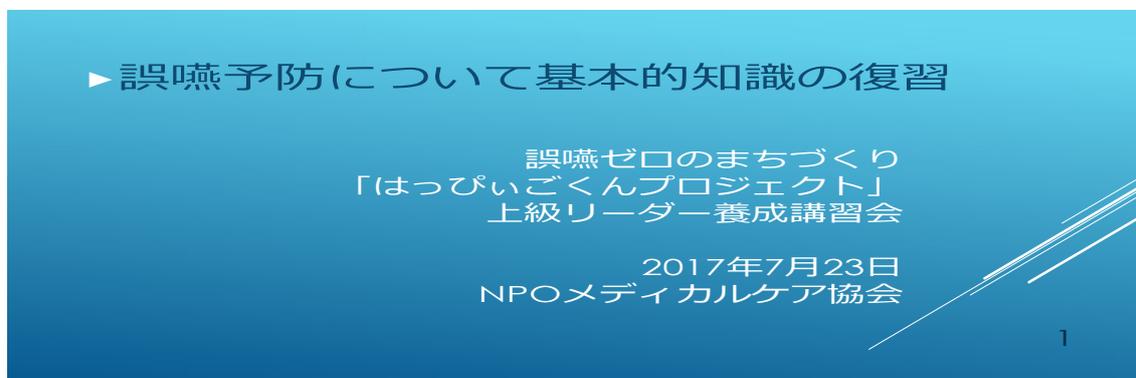
甲斐縁隊が各メンバーや地域の人たちへの啓発活動のための資料である。



②上級リーダー用養成ための甲斐縁隊バージョン教材

地域のごくんリーダーから上級リーダーへの就任について、今回基本的知識の復習教材（図表—12参照）と、上級リーダー養成講習会レジュメ、講習会実施後の確認表（図表—14）を開発提供して育成プログラムを実施した。

図表—12 基本的知識表紙



図表—13 上級リーダー養成講習会レジュメ

誤嚥ゼロのまちづくり
「はっぴいごくんプロジェクト」
上級リーダー養成講習会
2017年7月23日
NPOメディカルケア協会

上級リーダーとは

- はっぴいごくんプロジェクトを理解している
→ テキスト P 2 5 ~
- 誤嚥ゼロのまちづくり3か条を理解している
→ テキスト 「はじめに」
- 誤嚥予防について基本的知識が理解されている
→ テキスト P 5 ~ P 2 1
- 食べる機能を保つ簡単リハビリを理解している
→ テキスト P 2 2
- 誤嚥予防ダンスと嚥下カレンダーを楽しく感じる
- はっぴいごくんリーダー証を携帯している
- * はっぴいごくん会員規約を理解していること
- NPO法人メディカルケア協会が特に認めたもの

2

はっぴいごくんプロジェクトについての理解

- ポイント
- 目的
- 目標
- 全体概要
- はっぴいごくんリーダーの役割について

誤嚥予防について基本的知識の復習

- ポイント
- 基本チェックリスト
- 飲み込み(嚥下えんげ)の仕組み
- 嚥下の流れ
- 誤嚥のサイン
- 食べる力の低下が引き起こす低栄養
- 摂食嚥下障害 スクリーニングチェックシート
- どうしたら予防できるか
- 食べる力を鍛えよう!

- 誤嚥予防ダンスの実演
- 嚥下カレンダーの指導

3

(1) 誤嚥予防用ダンス『オリジナル曲、オリジナルダンスの実演』のポイント

「みんなでいただきます」
→ やや早めの曲調で、幼児から高齢者までの多層を対象にしたダンスです。

「パタカラロック」
→ 要支援者向けの曲調とダンス構成としている。

「パタカラの歌声」
→ 要介護者1, 2の人達を主たる対象者として製作している。

(2) 『嚥下カレンダー』の理解・指導のポイント

「無理しない」
→ できる範囲で、継続していくことが大切

「体調に合わせて」
→ 発声の長い、短いより繰り返すことの方が大切

「確認する」
→ 実施したことを記録しておくことで、自分の行動が確認できる

4

図表－１４ 上級リーダー講習出席確認表

上級リーダー講習会出席確認表			
平成29年7月23日			
項目	回答「○印で記入」		
	十分理解できた	理解できた	少し理解できた
はっぴいごくんプロジェクトは理解できましたか			
誤嚥ゼロのまちづくり3か条は理解しましたか			
誤嚥予防について基本的知識は理解しましたか			
誤嚥予防用ダンス『オリジナル曲、オリジナルダンスの実演』のポイントは理解できた			
『嚥下カレンダー』の理解・指導のポイントは理解できた			
誤嚥予防ダンスと嚥下カレンダーを楽しく感じる	楽しい	少し楽しい	楽しくない
はっぴいごくんリーダー証を携帯している (会員規約は理解した)	はい		いいえ
ご意見:			
ご提案:(今後の活動など)			
所属:			
名前:	連絡先	メールアドレス	
		電話	
NPO法人メディカルケア協会			
<small>* 個人情報は、誤嚥ゼロのまちづくり「はっぴいごくんプロジェクト」リーダー活動以外には使いません。</small>			

1) 参加者の状況

理解の確認のためのチェック用として、図表—14にもとづき確認した。理解の箇所は参加者全員が「理解できた」「十分理解できた」と回答し、「ダンスやカレンダーを楽しく感じて対応できる」と参加者全員が回答した。¹⁴

¹⁴ 個別の確認表の事例は参考資料4参照(一部)

図表— 1 5 集計結果

上級リーダー講習会出席確認表集計結果			
項目	回答「○印で記入」		
	十分理解できた	理解できた	少し理解できた
はっぴいごくんプロジェクトは理解できましたか	55	13	0
誤嚥ゼロのまちづくり3か条は理解しましたか	47	21	0
誤嚥予防について基本的知識は理解しましたか	38	30	0
誤嚥予防用ダンス『オリジナル曲、オリジナルダンスの実演』のポイントは理解できた	45	23	0
『嚥下カレンダー』の理解・指導のポイントは理解できた	44	24	0
誤嚥予防ダンスと嚥下カレンダーを楽しく感じる	楽しい	少し楽しい	楽しくない
	60	8	0
はっぴいごくんリーダー証を携帯している (会員規約は理解した)	はい		いいえ
	68		0

2) 参加者の意見

- ・とてもわかりやすい講習会でした。ダンスは気楽に毎日できそうで、音楽もジャンル化されて幅広い年代層に受け入れられると思いました。
- ・初めて誤嚥予防ダンスを見せてもらっていろいろなバージョンの曲があって楽しいそうだと感じた。高齢者だけでなく、子供も楽しめるような内容で勉強になりました。
- ・甲斐縁隊にとって活動の幅が広がるのは嬉しいです。
- ・メディカルケアの体操はとても健康的で良いと思います。
- ・だれでもできるダンスでよいです
- ・介護施設で働いています。誤嚥は身近ですが、改めてメカニズムを聞いてよかったです。
- ・施設でもパタカラ体操などしていますが、紹介していただいたような全身を動かす体操は皆で楽しくできて素敵だなと思いました。
- ・症状が軽いうちに自身や周囲が気づいて毎日少しずつ継続していくのが大切なのかなあと思いました。

- ・誤嚥の知識が深まりよかった。
- ・社会全体への普及はもちろん、高齢者の皆さんにこうした活動や嚥下障についての知識がひろまったら良いと思いました。

3) ご提案

- ・身近な人にこのような動きがあると伝えていきます。イベントがあれば何かおてつだいすることがあれば参加したいです。
- ・福祉施設や高齢者施設でのボランティアや子供向けのイベント等で甲斐縁隊として誤嚥予防の啓発活動をしていけたらと思います。
- ・メディカルケア協会がもっと知られたらいいと思います。私もどんどんPRしていきます。
- ・より多くの年寄りに気づいてもらうように活動したい。

4) メディカルケアと甲斐縁隊との共同での展開実施のコラボプロジェクトリーダーの声

* 誤嚥予防活動に参加してよかった点

誤嚥予防活動に参加したことで得られたものは3つあります。

1つ目は誤嚥の知識が身につき、周りの人にも知識を広めることができたことです。私は大学で食に関する学問を学んでおり、誤嚥に関する知識は身につけていましたが、実践的な予防方法についての理解は深められていませんでした。誤嚥予防活動に参加し、誤嚥予防体操を実践したことで、嚥下機能を維持・向上させるポイントだけでなく、継続させるための楽しく取り組めるポイントについて学ぶことができました。また、習得した知識を家族や友人、周りの人に広め、共有することができました。周りの人と一緒に楽しく誤嚥を予防する取り組みを行い、社会貢献できたことが自分への自信になりました。

2つ目は食の楽しみ、喜びをより深く感じられるようになったことです。私は子供の頃から食への関心が強かったため、大学でも食に関する学問を学んできました。その中で、食の楽しみを多くの人にいつまでも感じてもらえる取り組みをしたいと思い、誤嚥予防活動に参加しました。活動を通して、誤嚥予防の重要性を学ぶとともに、食事が出来ることのありがたさに気づくことができました。普段当たり前のように食事をしていましたが、誤嚥することなく楽しく食事ができているのは、嚥下機能が十分に働いているためであることがわかり、加齢とともに低下していく機能を維持していく取り組みが重要であると感じました。より多くの人々の食の楽しみを守るために、誤嚥予防活動を広げていきたいという意欲を強まりました。

3つ目は人々とのつながりを広げることができたことです。私が誤嚥予防活動に参加したのは、甲斐縁隊に入って間もなかったのも、親しい人が少なく、不安もありました。活動を通して、あまり交流のなかった人とも会話をしながら取り組むことができ、交流を深めることができました。また、他世代との出会いや交流を通して、様々な価値観に触れ、視野を広げることができました。人とのつながりを広げることができたことで、自分自身が大きく成長することができました。

誤嚥予防活動を通して、学びや気づき、自己成長など、多くのものを得ることができたので、参加して良かったと心から思いました。

* コラボプロジェクトを進めていく過程で、甲斐縁隊をまとめていく上で苦労した点

私はプロジェクトを進めていくうえで、チームの雰囲気作りに力を入れて取り組みました。私は参加当初、メンバーとの交流が少なかったのも、最初はどのようにチームをまとめていくべきか、とても悩みました。自分なりに考えた結果、組織全体が協力してひとつのことに取り組むためには、チームの雰囲気が大切だという結論に至りました。そのために、自分自身が明るく振舞い、チーム内の明るい雰囲気作りに努めました。その結果、一人ひとりが前向きに取り組む、活動を楽しめる経験としてメンバー内で共有することができました。このことから、目的だけにとらわれず、チームの雰囲気を良くすることを心がけることの大切さを学ぶことができました。

* 今後の誤嚥予防活動について（えんげちゃん体操の活用や伝承について）

今年度の活動は誤嚥予防体操の制作と甲斐縁隊メンバーへの誤嚥の啓発が主となりました。今後は、誤嚥予防活動のプロジェクトメンバーを増やし、住民への誤嚥啓発活動を積極的に行っていきたいです。また、今年度制作した山梨ご当地の誤嚥予防体操を使った啓発活動を行い、県全体に普及させていきたいです。プロジェクトメンバーを増やすために、誤嚥予防活動の広報活動を活発に行いたいと考えています。SNSを通じて活動の様子を報告したり、随時募集を呼びかけたりしたいと思います。また、指導していく立場として知識を身につけ、伝えられるように、講習会などを定期的に行っていきたいです。誤嚥予防体操を普及させるために、県内の高齢者施設や保育園、幼稚園に提案していき、直接施設に出向いて誤嚥の啓発と、誤嚥予防体操の指導の実演を行いたい、活動の範囲を広げていきたいです。さらに、県内の健康や食に関するイベント等にも積極的に参加していきたいと思います。

誤嚥ゼロの街づくりのためには、住民一人ひとりが誤嚥予防活動を継続して行っていく必要があります。人々の楽しい食を守るために、今後も誤嚥予防活動の普及に努めていきたいです。

実施事業 4. 住民参加型普及啓発活動

- (1) 候補地：八王子市、甲斐市、藤枝市、新宿区、横須賀市
各 2 回開催（計 10 回）
- (2) 啓発活動ツールの作成（ご当地啓発活動教材、リーダー缶バッジ、インストラクター証等）
- (3) 地域キーパーソンを発掘しながら、既存コミュニティルートを通じた地域特性を生かした啓発活動を行う。

事業目標

- ・「誤嚥ゼロのまちづくり」の他地域展開
インストラクター等を活用して 3 か所以上で横展開を目指す。さまざまな地域の特性に応じた展開方法のノウハウを蓄積することで、住民主導の健康づくりによる地域づくりモデルを構築できると期待できる。

1. 実施事項

(1) 対応インセンティブ教材作成

住民への啓発活動実践においては、本年度養成したインストラクター、上級リーダーに加え、昨年度育成した地域ごくんリーダーの活動についての対応教材やインセンティブツールの開発・提供が必要である。本年度は、先にあげた教育支援インセンティブ、活動成果支援インセンティブを組み合わせるダンスや既存支援ツールを利活用した。

図表— 16 インセンティブツール

ツール分類	主な対象者	作成物
日常誤嚥予防活動支援インセンティブ	誤嚥ゼロまちづくり参加者	世界のえんげちゃんと一緒に「ダンス、楽曲・歌詞」
		「食べて おどって 歌って」甲斐援隊「ダンス、楽曲・歌詞」
		食べるしあわせいつまでも「ダンス、楽曲・歌詞」
地域間競争インセンティブ	誤嚥ゼロまちづくり参加者	ご当地ソング発表会提案
		ご当地ソング事例「山梨」「宮城(仙台)」

(2) 地域住民参加型普及啓発活動

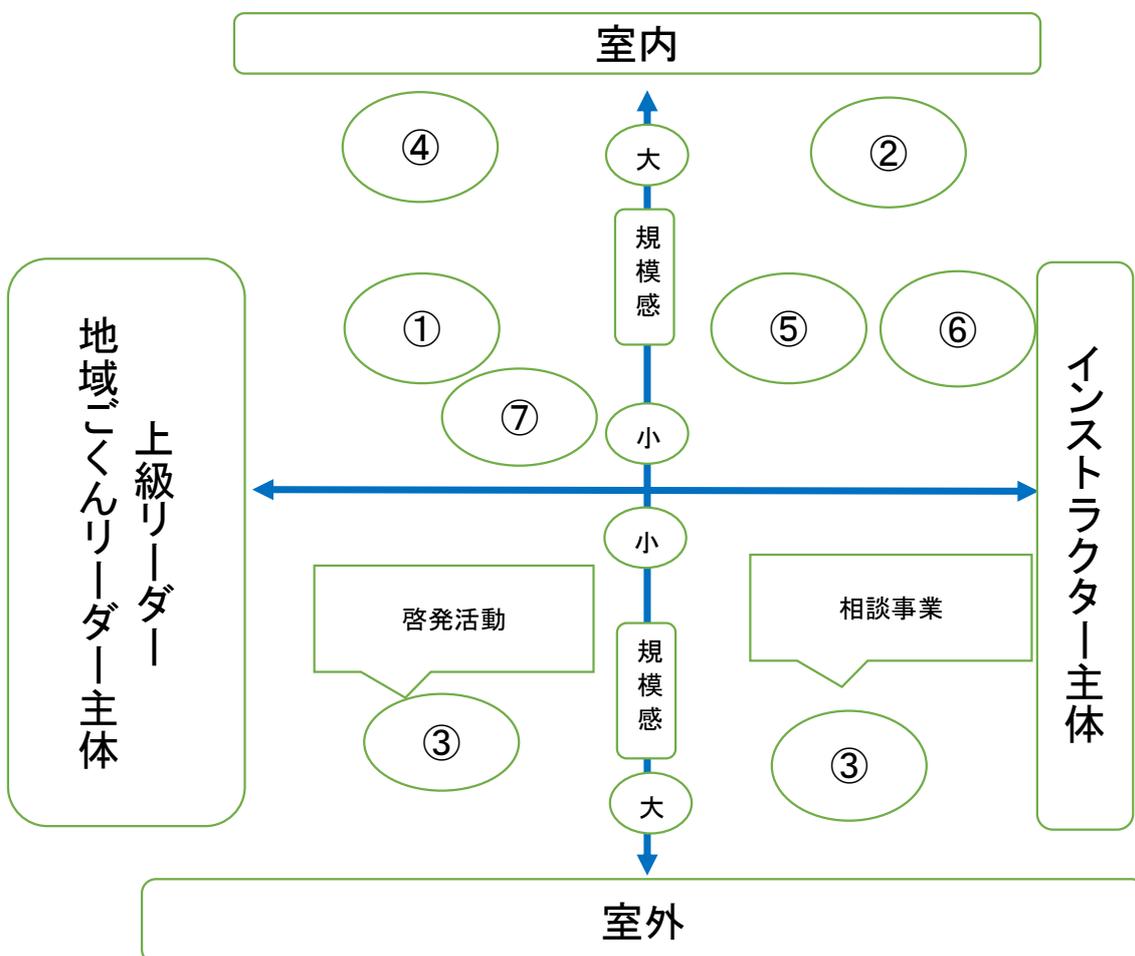
本年度当初の計画の実施予定箇所を踏まえつつ、事業目標の「インストラクター等を活用して 3 か所以上で横展開を目指す。さまざまな地域の特性に応じた展開方法のノウハウを蓄積することで、住民主導の健康づくりによる地域づくりモデルを構築できると期待できる」内容を踏まえて実施することとし、活動の形態を室内外、実施人材育成のり活用の軸で分類して活動の幅を広げて展開することとした。

1) 活動の形態と育成リーダー等の関係

2017 年度実施した住民参加型普及啓発活動を実施の空間、実施参加者規模、実施における主体者（育成した誤嚥予防のまちづくり実施の担い手）で分類すると図表－17の通りとなる。

本年度は、育成された誤嚥ゼロのまちづくりの担い手の活動範囲が全領域で行われたことがわかる。

図表－17 住民参加型普及啓発活動分類



2) 住民参加型普及啓発活動実施全体

2017年度は、図表-18記載のとおり、合計8箇所で開催活動を実施した。地域での展開を中核的に実施し、上級リーダーやインストラクターの育成との連携を重視した啓発活動を行ったことで、2018年度は新宿区で20か所、横須賀市で2か所と拡大して実施することができた。

図表—18—① 2017年度住民参加型普及啓発活動実施先一覧

NO	①	②	③
	誤嚥予防講演会 「食べる力を鍛えよう！」 ～自分達でできることから始めよう～	八王子市健康フェスタ・食育フェスタ 食べる力を鍛えて、誤嚥予防	山梨ねんりんピック ～誤嚥ゼロのまちづくり～
開催日時	5月11日	5月21日	9月30日
開催場所	甲府市総合市民会館	エスフォルタアリーナ八王子 (八王子市総合体育館)	小瀬スポーツ公園
連携先	甲府・食事サービスをすすめる会 (配食サービスボランティア団体)	・南多摩地域リハビリテーション支援センター ・八王子市	・山梨県学生ボランティア「甲斐縁隊」 ・山梨言語聴覚士協会 ・山梨県
リーダー	上級リーダー3名	インストラクター19名(ST) はっぴいごくんリーダー24名	インストラクター1名上級リーダー3名、はっぴいごくんリーダー16名
参加者	スタッフ、利用者、地域住民など 26名	・スタッフ(PT、管理栄養士等ははっぴいごくんリーダー)24名 ・来場者1万名超/日 ブース来場者:1000名超 ステージ体操来場者:38名 相談コーナー来場者233名	・スタッフ(介護福祉士、医療系学生等ははっぴいごくんリーダー):16名 ・来場者2000名超/日 ブース来場者約300名(内相談者210名)
実施内容	・嚥下講話 ・嚥下うた体操ダンス ・チェックシート、簡易検査による「飲み込み力」チェック ・活動ツールの紹介	・ブース:飲み込み力チェック、サイネージによる体操動画上映、活動紹介、リーダー勧誘、相談コーナー、啓発リーフレット配布 ・ステージ:言語聴覚士による誤嚥予防講話、体操実演	・ブース:飲み込み力チェック、サイネージによる体操動画紹介、活動・ツール紹介、リーダー勧誘、 ・山梨県ST協会言語聴覚士の相談コーナー 啓発リーフレット配布、嚥下に配慮した食品の紹介
目的	・地域活動団体との連携 ・啓発活動 ・リーダー勧誘、発掘 ・利用者への啓発活動推進 ・オリジナル嚥下体操ダンスの紹介	・啓発活動 ・リーダー勧誘、協力者発掘 ・高リスク者の発見 ・オリジナル嚥下体操ダンスの紹介	・多世代が関わる啓発活動 ・リーダー勧誘、協力者発掘 ・高リスク者の発見 ・オリジナル嚥下体操ダンスの紹介

図表—18—② 2017年度住民参加型普及啓発活動実施先一覧

NO	④	⑤	⑥	⑦
	山梨子ども広場 嚥下体操ダンスで誤嚥予防！	横須賀幼稚園 誤嚥予防でいつまでも元気でいてね！	横須賀幼稚園 誤嚥予防でいつまでも元気でいてね！	高齢者サロン 誤嚥に気をつけよう！
開催日時	11月26日	12月5日	8日	2か所で実施
開催場所	甲府総合市民会館	横須賀幼稚園	横須賀幼稚園	
連携先	山梨県学生ボランティア「甲斐縁隊」 県内学生ボランティア団体 (福祉、環境、子供、教育分野等)	横須賀幼稚園	横須賀幼稚園	新宿区内高齢者クラブ、 会食会等
	上級リーダー21名	インストラクター5名	インストラクター5名	実施合計、インストラクター1 名、上級リーダー2名
参加者	・スタッフ(学生等ははっぴいごくんリーダー):28名 ・来場者300名超/日 ・ステージ体操来場者:76名	両日で、 年長組2クラスの園児、 その祖父母、職員合わせて100名超	両日で、 年長組2クラスの園児、 その祖父母、職員合わせて100名超	合計43名
実施内容	・ステージ:甲斐縁実演による体操 啓発紙芝居の上映 ・リーダー勧誘 ・啓発リーフレット配布	・祖父母への誤嚥予防講話 ・園児と一緒に体操実演	・祖父母への誤嚥予防講話 ・園児と一緒に体操実演	・事業趣旨説明 ・講話 ・チェックシート、簡易検査による 「飲み込み力」チェック ・嚥下体操
目的	・地域活動団体との連携 ・多世代が関わる啓発活動 ・リーダー勧誘、協力者発掘 ・オリジナル嚥下体操ダンスの紹介	・多世代が関わる啓発活動 ・ごっくんリーダー募集 ・人材発掘、育成 ・オリジナル嚥下体操ダンスの紹介	・多世代が関わる啓発活動 ・ごっくんリーダー募集 ・人材発掘、育成 ・オリジナル嚥下体操ダンスの紹介	・地域活動団体との連携 ・啓発活動 ・孤食防止 ・高リスク者の発見 ・リーダー勧誘、発掘 ・オリジナル嚥下体操ダンスの紹介

4) 個別住民参加型啓発活動先での特長等

①誤嚥予防講演会「食べる力を鍛えよう！～自分達でできることから始めよう～

甲府市の配食事業者の担い手向けの上級リーダー研修と、地域住民向けの啓発活動を同時に実施した活動であった。基礎学習の丁寧な説明と同時に、一般参加者からの現状の嚥下に対しての質問や相談等の時間をより多く割いて、日常生活での体操等の継続的实施を促した。

また、上級リーダーには最後に配食事業者向けの本邦初の「アセスメント表」¹⁵を説明して、配食先の高齢者への活用と、誤嚥予防対応ツールの継続的な利活用の協力を依頼した。

『活動の様子』



②八王子市健康フェスタ・食育フェスタ「食べる力を鍛えて、誤嚥予防」

インストラクター養成研修結果を踏まえて、医療法人社団永生会の地域活動、リハビリ活動紹介の場において、嚥下関係のアニメーション放映を実施して啓発活動をおこなった。

エスフォルタアリーナ八王子において誤嚥予防ダンス「明日へ輝け！八王子」を中心に研修にて会得した「オリジナルソング体操のえんげちゃんダンス・体操」を市民参加のもとに活動した。

インストラクターとして学習した言語聴覚士と一般住民の参加者との誤嚥予防ダンスは、大いに盛り上がり、誤嚥予防の啓発活動に大きなインパクトを与えた¹⁶。

¹⁵ 参考資料2 参照

¹⁶ 案内等は参考資料パンフレット参照

また、相談コーナーの前に設定した「えんげちゃん映像（誤嚥に関する諸情報の映像）」をデジタルサイネージで情報開示したが、テーマの新鮮さや、楽曲、映像からのわかり易い説明等から多くの人が立ち寄り、関係者への質問が多数寄せられて、相談コーナーが活気づいた。

今後の集客ツールとしてのサイネージの利活用は有効であると実証できた。

『活動の様子』



③ 山梨ねんりんピック～誤嚥ゼロのまちづくり～

山梨県の健康増進普及月間のイベントの山梨ねんりんピックにて啓発活動を実施した。山梨県言語聴覚士協会の支援を得て、誤嚥に関する防止関係の説明と、各種ツールの説明会、チェックリスト¹⁷による高齢者の症状確認と、症状に懸念があると上級リーダーや地域ごくんリーダーが判断した場合、山梨県言語聴覚士協会より派遣いただいた専門職（言語聴覚士）からアドバイス等を行った。

八王子で経験したデジタルサイネージによる集客映像発信は、ここでも好影響を得て、多くの人が立ち寄り（300名超）、また、調査表に記録した人から生の声を聞くことができた。

このイベントでは、従来の屋内での少人数の対応ではなく、チームとしての対応が必要であったが、事前の準備や、図表—の活動手順書の都度確認、地域ごくんリーダーや上級リーダーの日頃の活動成果が発揮されてトラブル無く運営された。

また、来場者の多さや注目度の高いテーマであったことから、「山梨中央テレビ」より取材が急遽入り、取材結果の映像等が同テレビの夜のニュースでメディカルケア協会の活動として放映された。

¹⁷ 参考資料5 参照

今回のイベント参加においては、従来にない開催設計のため、以下のような様々な実証を試したが、多くの知見を得ることができた。

●実証事業

(1) 将来事業基盤確保のための経済活動の実施

- ・寄付の要請の実施

『結果』会場に募金箱を設置して、募金を要請したが、積極的な働きかけが薄く、募金は無かった。

(2) 屋外での啓発活動における設営や運営の実証

- ・活動手順書等による対応とサイネージの有効活用

『結果』活動手順書に基づき、サイネージによる動画での誘引活動を実施した結果300人余りの人をコーナーに誘引できた。サイネージ効果は大きかった。

(3) 専門職各関係機関との連携

- ・山梨県言語聴覚士支部との連携による誤嚥に関するPR活動の連携

『結果』同協会より一名の専属STの応援をいただき、相談コーナーに待機願った。アンケートにて聴聞した結果の症状から専門職からのアドバイスが必要な方に対して対応してもらった(約38名)。

(4) 民間企業とのタイアップ

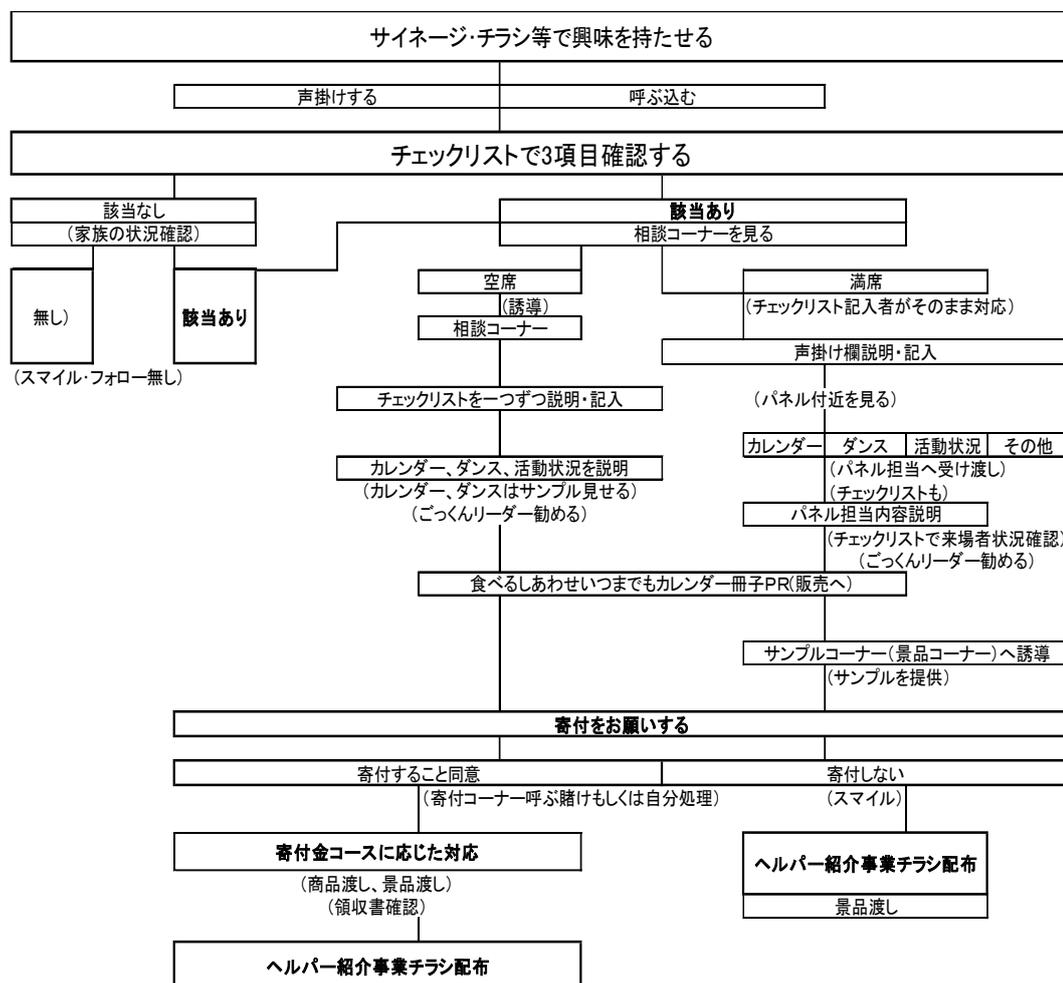
- ・機能性栄養食品サンプルの提供での商品や嚥下PRの実施

『結果』

図表—19 機能性栄養食品サンプルの提供での商品結果

濃厚流動食についてご存知でしたか？	はい	40名	いいえ	161名
ご存知の方はどこで知りましたか？	テレビ:12人、病院8名、区役所等広報20名			
濃厚流動食を使った(食べた)ことがありますか？	はい	18名	いいえ	183名
どこで使った(食べた)ことがありますか？	病院:2名、ディサービス等施設:4名、家:6名、イベント先2名、その他:4名			

図表-20 活動手順書



出所：インセンティブ手法の調査研究

(5) 不特定多数者へのアンケート聴取の実施¹⁸

・デジタルサイネージの上映内容で興味を引き、その後に誤嚥に関するアンケート等の徴収のスタイルの確立

『結果』

300人余りの人が立ち寄り、201名の人にアンケート調査ができ、興味を引く媒体として有効に働いた。

図表—21 アンケート回答者数

性別	合計	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
男	95	1	3	10	49	31	1
女	106	3	1	13	48	38	3

¹⁸ 基本フォーマットは選考資料4参照

会場来場者が中高年齢層のため、今回、男・女について同じ程度の割合になるようにした。

図表—22 嚥下の状態

半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい	19	ときどき	8	いいえ	174
お茶や汁物等でむせることがありますか？	はい	19	ときどき	39	いいえ	143
口の渇きが気になりますか？	はい	39	ときどき	27	いいえ	135

誘導のためのポイントとして3点を確認して、症状のある方については、言語聴覚士やごくんリーダーへ誘導して、誤嚥予防のプログラムをしっかりと説明、もしくは症状の相談に応じた。約25%の人が何らかの症状があった。特に口の渇きについては3割以上の方が症状を報告している。

図表—23 現在の体調確認

ときどき深呼吸をしていますか？	はい	167	あまりしない	15	しない	19	
首を動かす体操をしていますか？	はい	163	あまりしない	15	しない	23	
食後の後など「えへん」と咳払いをしますか？	はい	70	あまりしない	73	しない	58	
声を出したり、話したりしていますか？	はい	127	あまりしない	8	しない	66	
一般的な体操をどのくらい行ないますか	毎日⇒89名	一週間に2,3回	35	一週間に1回	42	しなかった	35

誘導ポイントからある程度症状の軽い、もしくは嚥下状態に違和感のない人に対して現在の体調について確認した。咳払いについての反応が薄く、その場で咳払いの必要性を説明した。

また、運動については、健康寿命日本一の県であることから高い割合で実施されていることがわかる。

図表—24 会場に展示した誤嚥予防カレンダーについて

カ パ レ ネ ン ダ ー	「食べる幸せいつまでも」カレンダー	興味は持てましたか？	はい	135	まあまあ	39	いいえ	27
		理解できましたか？	はい	135	まあまあ	35	いいえ	31
		体操は続けられそうですか？	はい	155	頑張ります			46

誤嚥予防のための体操が書いてあるカレンダーを各調査員が説明して、誤嚥予防に有効であることを説明して、体操の実施啓発活動を行った。又、今後の継続のためにサンプル用のカレンダーを手渡して継続の必要性も説明した。

結果 9 割近くの人が理解されて、実際に体操意欲が沸き、自宅での実施意向者は、77%となった。

図表—25 嚙下ダンスについて

サイ ネー ジ ・ パ ネ ル	どのダンス・歌が好きですか？ 好きなのに○印つけてください		音頭:58名、いただきます:54名、ぱたからロック:39名、歌声:50名					
	えんげちゃん ダンス	楽しかったですか?(楽しそうですか?)	大変楽しかった	135	まあまあ	27	いいえ	39
		続けたいですか?(続けてみたいですか?)	はい		162		いいえ 39	
		他のひとに教えたいですか?	はい		135		いいえ 66	

デジタルサイネージで放映した嚙下ダンスについての感想等を聞いた結果、8割人が好意的であった。

図表—26 誤嚙ゼロのまちづくりについての取組

状 況 動 向	本取り組みをどう 思いますか?	とてもよい⇒73名	よい	120	あまりよくない	5	よくない	3
------------------	--------------------	-----------	----	-----	---------	---	------	---

誤嚙ゼロのまちづくりについて来場者へ確認したところ、92%の人が好意的であった。

『活動の様子』



山梨中央TVの取材

ブースの様子



⑤山梨子ども広場「嚔下体操ダンスで誤嚔予防！」

山梨県ボランティア協会の主催で毎年実施されている子ども広場イベントに甲斐縁隊が毎年参加している。毎年、子ども達への歌や郷土の踊りを発表していたが、本年度は新たに、誤嚔予防プログラムの中から「誤嚔予防ダンス」と「誤嚔に関する予防の啓発のための紙芝居」を発表した。

この開催の対象者が、子育て世代や子供達であるが、祖父母世代が参加していることや、甲斐縁隊の毎年の実績から、多世代に向けた裾野の広い範囲での「誤嚔予防」のための啓発活動が可能となった。

『活動の様子』



⑥横須賀幼稚園「誤嚔予防でいつまでも元気でいてね！」

「インストラクター養成」「幼稚園児へ指導を通じたボランティア精神の醸成（学んだダンスを地域の介護施設等に訪問して発表する）」「継続的展開（参加者祖父母等の地域での啓発活動）」「孫世代のえんげ体操等実施で予防活動に対する祖父母を励ますことによる健康寿命の延伸」「公的機関といえる幼稚園での活動の地域への影響度」「マスコミ等の取り上げなどによる地域関係機関等からの照会」¹⁹など多くの活動上の成果がでた。

『活動の様子』



¹⁹参考資料 朝日新聞記事 タウンニュース記事 はまかぜ記事

⑦高齢者サロン「誤嚥に気をつけよう！」

昨年度より新宿区と誤嚥予防に関する活動について連携しているが、今年も新宿区で会食会を実施している集まりと縁をつなぎ、誤嚥予防に関する啓発活動を実施した。注目すべき点は、会食会参加者のなかから自分たちのボランティア活動の仲間に話を聞かせたい、老人会に来て欲しいといった相乗的な啓発活動依頼が多かった。そのことが2018年度以降の一層の活動の広がりにつながっている。

また昨年来より実施している会食会へは、誤嚥予防の継続的対応ツールである食べるしあわせいつまでのカレンダー(体操付き)を持参、説明することで、昨年から維持向上状況、口コミによる活動の地域への広がりを検証した。

図表－２７ 伝播力調査

参加者数	誤嚥予防に気をつけるようになった	伝えた	何人に伝えたか				誰に伝えたか(複数回答あり)		
			1人	2人	3人	4人以上	家族	友人	その他
24	24	17	4	6	3	4	8	15	3

出所：ホットサロンえのき アンケート調査(2017年11月12日)

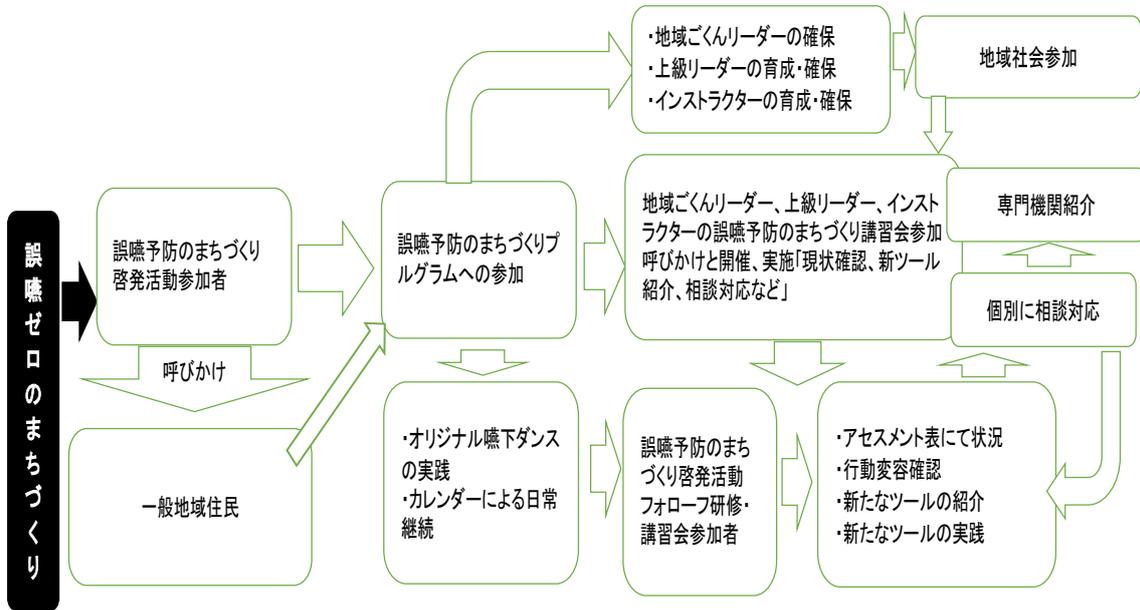
昨年実施のサロン参加者はその全員が誤嚥予防に気をつけるようになったとの回答を得た。また、誤嚥予防の活動についての口コミについて確認したところ、7割の人が啓発活動に内容を伝えていた。家族、友人など身近な人たちに伝えている結果であった。

こうした結果は、誤嚥ゼロのまちづくりの「継続支援プログラム」²⁰の開発につながる貴重な結果である。

今後の自立的活動においては、この継続性の対応の視点からの検討が重要であり、効果期待が高まる可能性を示した。

²⁰参考関係資料「継続性を確保する工夫」厚生労働省白書より

図表—2 8 継続支援プログラム



『活動の様子』



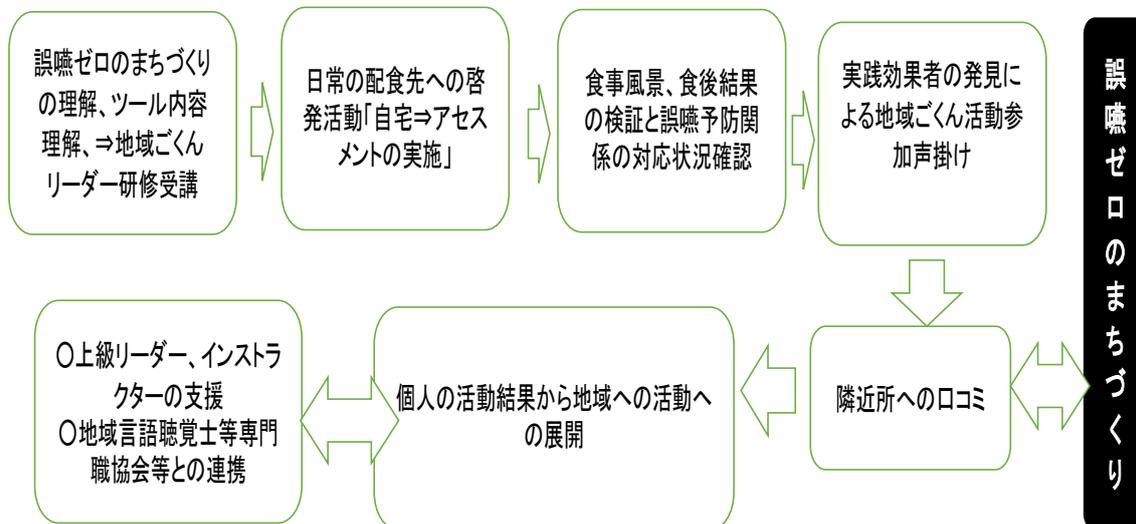
実施事業5. 今後の事業目標実現に向けて

- ・助成事業完了後の目標としては、3年以内に本事業専任部門を立ち上げ、寄付金、自治体からの受託、受益者負担などで必要経費を賄うことができる体制の確立を目指す。

1. 実施事項

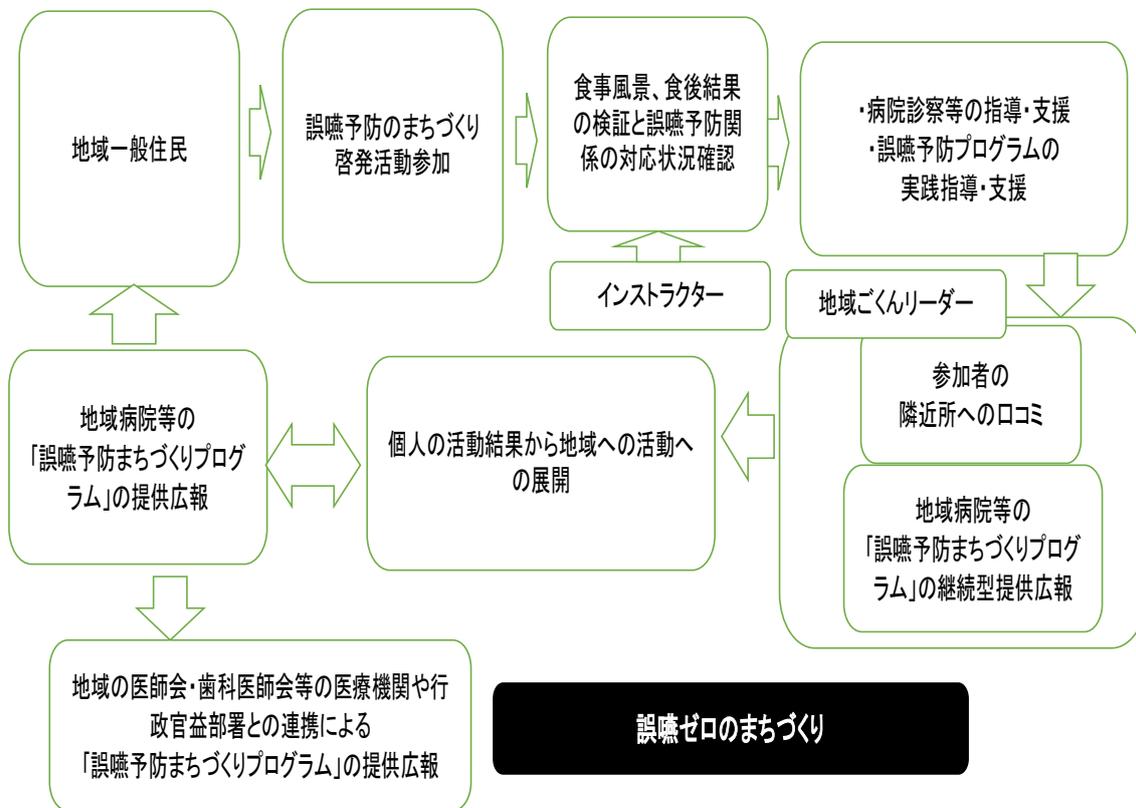
- 1) 各実証事業やインセンティブツール開発から事業継続にむけた将来基盤構築について以下の2つの視点から検討してみたい。
 - a) 今回の地域での誤嚥ゼロのまちづくりの啓発活動からの広域・高度化展開力の構築についてのスキームの視点
 - b) 開発したインセンティブ手法・商品からの視点
- 2) 誤嚥ゼロのまちづくりの啓発活動からの広域・高度化展開力の構築についてのスキームの視点
 - a) 配食事業者実証事業からの今後の展開

図表—29 配食事業者実証事業からの今後の展開



b) 病院・施設

図表—30 病院からの今後の展開

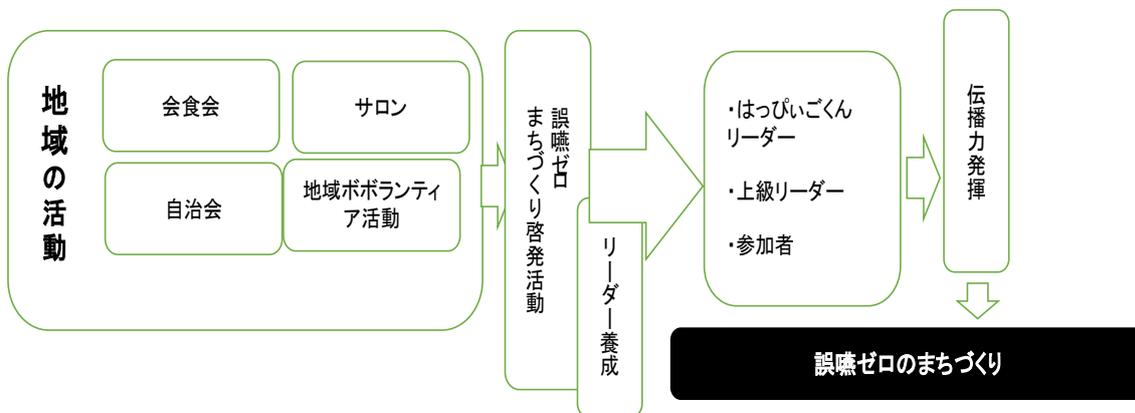


誤嚥ゼロのまちづくりにおいては、今後とも地域の歯科医師との連携は重要である。地域行政との連携や各専門職との連携、病院との連携など歯科保健医療ビジョン²¹においては、これまで歯科医療機関あるいは歯科専門職種で完結していた歯科保健医療は、地域包括ケアシステムの構築にあたって、他の職種や他分野との連携が必要とされている。今後、こうした連携は「誤嚥予防のまちづくり」においては、重要なファクターであると考えられる。

²¹詳細は、参考資料6「歯科保健医療ビジョン(素案)」参照

c) 地域ボランティア活動

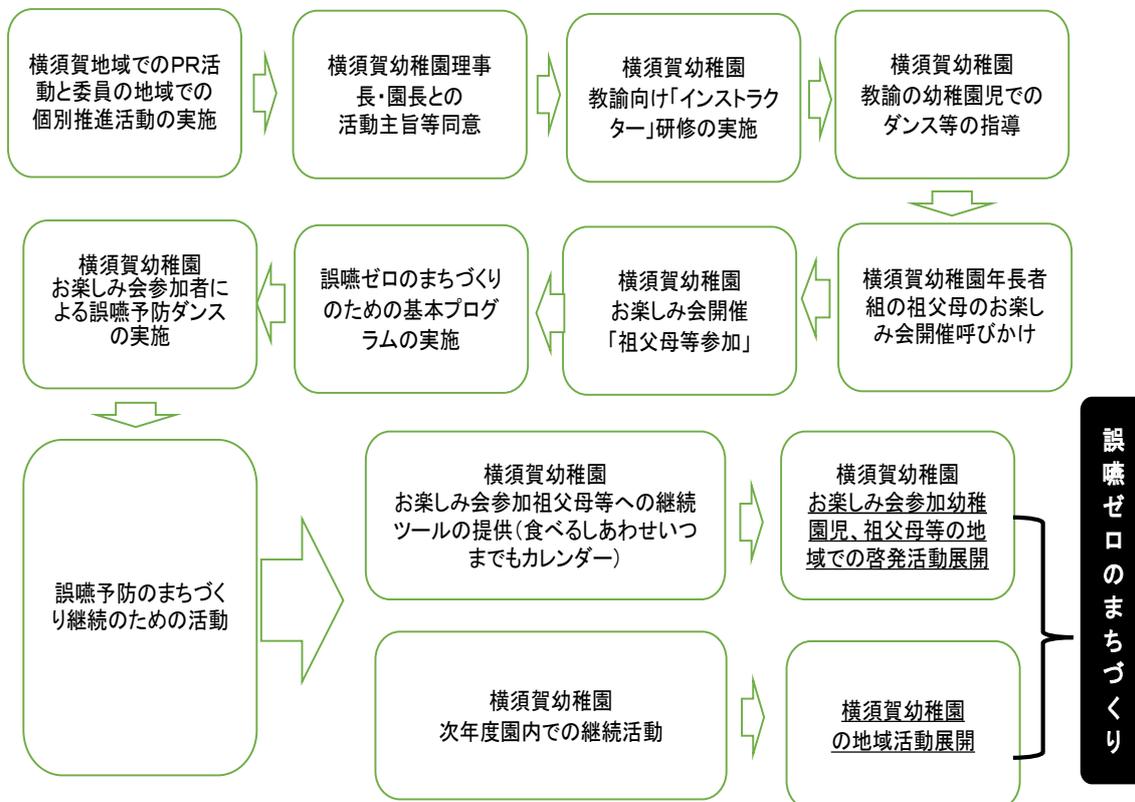
図表—3 1 ボランティア活動からの展開



はっぴいごくんリーダー²²については、基本的には誤嚥の基礎学習と各種誤嚥予防ツールの理解と利活用の実践、および、研修機会での各種質問事項のなかで基本的な内容の理解がある啓発活動参加者からリーダー意欲のある人を指す。

d) 学校関係(幼稚園)

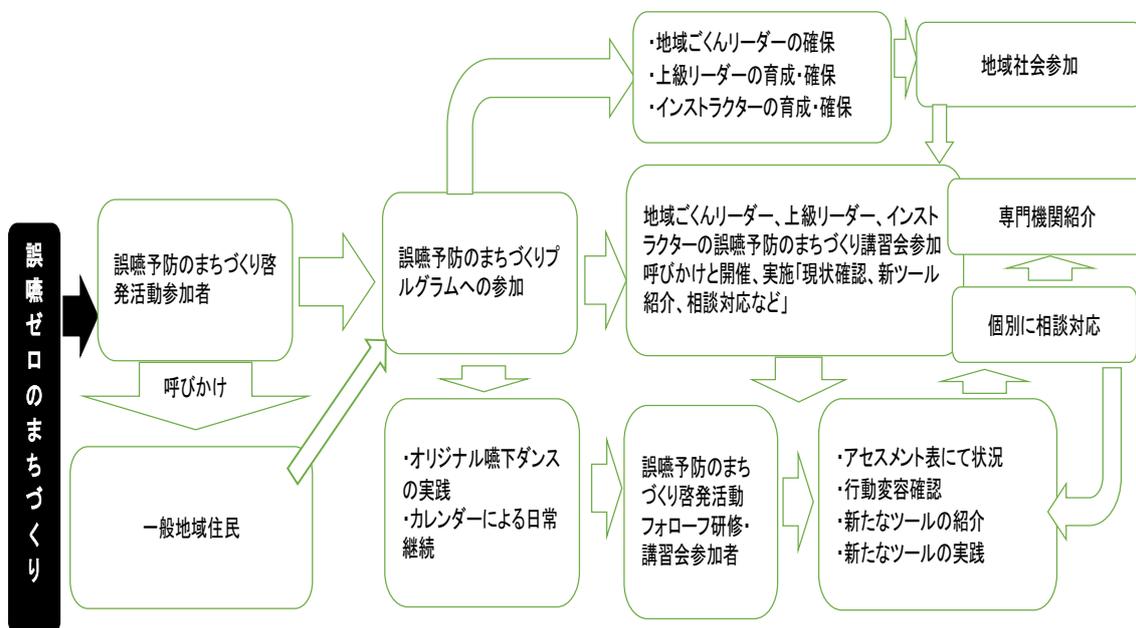
図表—3 2 学校関係からの展開



²² はっぴいごくんリーダーについての基本的な学習範囲は参考資料7 参照

e) 既啓発事業実施先の継続

図表—33 既存啓発活動実施先からの展開



3) 開発したインセンティブ手法・商品からの視点

開発した各種のインセンティブについては、実証事業結果を踏まえて、オリジナル化することで、将来事業展開基盤の重要なツールとして経済的貢献が可能になるものと考えられる。

今後の展開において、自主財源獲得の方法として検討に値すると考える。

図表—34 インセンティブツールの経済的基盤確保例

部門	使用用	内容		経済的基盤確保方法例	
教育支援インセンティブ	人材育成	地域展開人材確保・育成	啓発活動ツール	啓発活動実施前後に「誤嚥」とは何か等の基本的な知識を確認するための冊子	一般住民向け啓発本として提供する
			地域一般住民向け啓発活動教材	地域住民に「誤嚥ゼロのまちづくり」の担い手としての自覚を促進するための基本的な研修教材（ごっこんリーダーとしての心構え含む）	一般住民向け啓発活動実施の上級リーダーやインストラクターへの解説本として提供する
		専門職確保・育成	啓発活動支援ツール	地域のごっこんリーダーが日常的に啓発活動などを実施するなかで、継続的に実施できるように、専門職として支援するためのツールの作成	一般住民向け啓発活動実施の上級リーダーやインストラクターへの解説本として提供する
			一般住民継続支援ツール	専門職が一般住民に継続的に誤嚥に関する諸活動を実施するためのツール	一般住民向け啓発活動実施の上級リーダーやインストラクターへの解説本として提供する
			専門職技能向上教材	口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーション、低栄養対応、食環境づくりの4つを盛り込んだ誤嚥防止のための基本教材で、理論と実技を併せ持った教材（レズンプラン必須）	専門職の誤嚥予防に関する基本的知識の横断的知識習得のための教材として提供
活動成果支援インセンティブ	成果確認用指標など	啓発活動スタート時	基本チェックリスト	食べる力の維持・向上のための「食べる力」チェックシート	口腔ケア等の予防のための情報ツールとして提供。利用データの加工提供
		日常活動成果確認時	行動変容チェックリスト	体操やダンスを実施することでその成果を自分自身で確認するためのチェックリスト	健康予防活動によるデータ収集用ツールで実践者自身の自覚行動変容が収集でき、新たな顧客獲得ツール用としての利活用で提供
		日常活動確認	食べるしあわせいつまでもカレンダーチェック表	誤嚥予防のための各種体操等の実施（日常）の結果を書き込むことができるカレンダー様式の表の標準化様式のカレンダー	上級リーダー、インストラクターやその所属機関・組織等継続的に健康予防実施する先の定期的チェック、本人誤嚥予防活動チェックシートとして提供
		日常活動確認医学的解説書	カレンダー体操の医学的解説書	専門職等が日常継続的誤嚥予防活動確認のための、医学的見地からの解説書	上級リーダー、インストラクターやその所属機関・組織等継続的に健康予防セミナー実施の際の継続促進のための解説書として提供
		職種別チェック	配食産業用	配食産業のための口腔ケア等の事前チェック表の作成により、自宅での実施者の配食事業者が見守りを兼ねたチェック表の作成	配食産業のための口腔ケア等の事前チェック表の作成を一義的に実施するために提供
日常誤嚥予防活動支援インセンティブ	一定集団、地域での啓発活動支援	動的支援ツール	誤嚥予防のための「オリジナル」ダンス	誤嚥に役立つ訓練技法の入った独自の歌詞や振り付けや楽曲で「楽しみながら」誤嚥予防ができる誤嚥防止用ツール	DVD等で個人・法人等へ提供
	個人宅で自己訓練支援	動的支援ツール	（一般住民向けの解説書と指導者等への解説書）付き		DVD等で個人・法人等へ提供
		静的支援ツール	誤嚥予防のための毎日実施体操カレンダー	1ヶ月単位で体操が変わり12ヶ月間用意されていること。月を追う毎に難しくなる段階的な要素を組み入れる。また、実施結果が記録できる（食べるしあわせいつまでもカレンダー表）内容を一体化させる。	明るく、楽しく、便利に効果が確認できる健康予防活動ツールとしての提供。施設・法人等には顧客管理レポートツールとして提供
地域間競争インセンティブ	一定の集団、地域での活動成果発表支援	動的支援ツール	地域オリジナルソング	地域の特長や組織の特徴を盛り込んだ歌詞と楽曲とダンス	地域や集団組織にコンサルタント業務として提供。
		成果発表会	全国の地域オリジナルソングによる誤嚥ゼロまちづくり活動の成果を発表する全国大会を開催する		発表会イベントとして呼びかけする

4) インセンティブ手法に関する調査研究からの検討

インセンティブ手法に関する調査研究から、横展開のためのモデルの提案が提示されたが、具体的なインセンティブツールの開発を経済的基盤確保策として体系的に進めることで自立的事業展開も見えてくると考えられる。

■インセンティブ手法調査報告内容

1. 将来安定的な事業基盤のための考えられるビジネスモデル事業案

誤嚥ゼロのまちづくりの事業の基盤の構築については、以下の事業を複合的に展開することで、事業としての経済的価値が生まれると考えられる。

(1) 誤嚥予防プログラムの作成事業

誤嚥防止プログラムの基本教材について、地域、企業、行政等に合わせたオリジナル性の高いプログラムを提供する事業

(2) 個人向け誤嚥予防プログラムの提供

(1) の個人版の作成。

(3) 指導員養成事業

誤嚥ゼロのまちづくりの担い手としての地域のリーダーや医療・福祉・介護系専門職向けの指導員向けの教材や指導解説書等の提供と関連する研修の実施事業

(4) イベント事業

誤嚥ゼロのまちづくりのための啓発活動のためのイベント事業を展開する。

2. 将来安定的な事業基盤のための考えられるビジネスモデル事業案ビジネスモデル実現のための商品・サービスの形態例

(1) 各事業の横展開のためのインセンティブ手法の開発とは

今後、誤嚥ゼロのまちづくりのために作成される、各種ツールや研修教材や実施した啓発活動結果等は、単なる主催者の使うツールとしてだけでなく、広く国民が利活用するレベルとして考えていく必要がある。

そのためには、誤嚥の興味のある一般住民（であろう人たち含む）や、医療・福祉・介護系の専門職のそれぞれが担う役割に応じた商品・サービスの開発は必須である。

誤嚥ゼロのまちづくりのための「人づくり」と「ツール作り」は両輪で動く必要があり、この2つの軸が積極的に関与できる仕組みの開発こそが、「インセンティブ手法の開発」と考える。

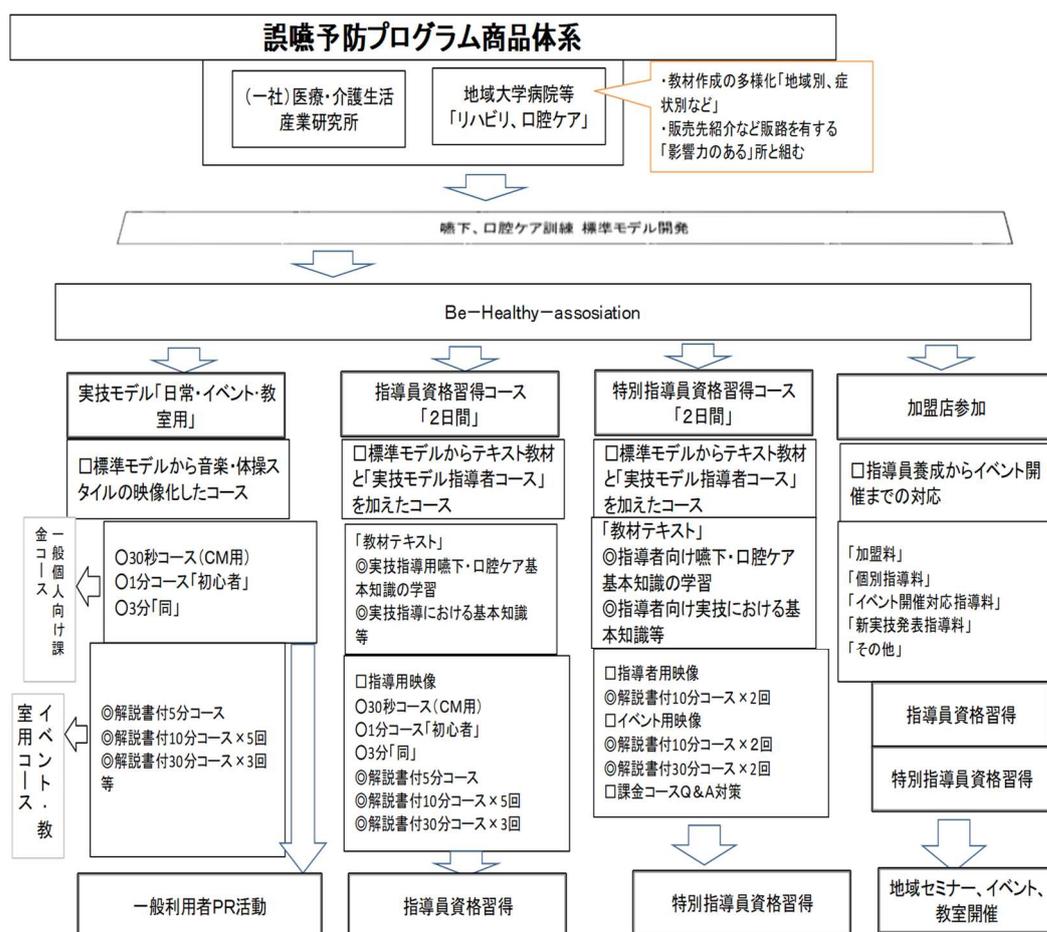
培ったノウハウや知見の横展開には、こうした視点からの事業構想が求められる。

また一方では、誤嚥を取り巻く政策的環境変化や政策に対するPR活動の重要であり、作成された「インセンティブ手法」を積極的に伝えることが重要となる。商品・サービスの作成から、広く伝え、経済活動に結びつける活動が今後との必要であり、「販路開拓」の接点先を常に意識した開発こそが、広く利活用される原点である。

(2) 商品・サービス体系イメージ

図表—35は事業展開で、研修展開の場合の必要となる教材等と対象者について例示したものである。

図表—35 誤嚥予防プログラム商品体系例



このように事業展開するイメージで全体的な商品・サービスの開発を行うための俯瞰図の作成は開発ツールや手法の開発プロセスで有効となる。

Ⅲ 実施体制

1. プロジェクト推進委員会の設置、開催は3か月に1回（計4回）

(1) 内容：本事業全体の活動推進に関わる助言、効果検証

(2) 委員：本領域に精通した方、影響力のある方など本事業推進に必要な方を5名

実施事項

1. プロジェクト推進委員会について

(1) 委員名

○日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授 植田耕一郎

○㈱オリエント総合研究所 主席研究員 梅北浩二

○法政大学客員教授 松島桂樹

○㈱プロント代表取締役 三笠ビル再開発協議会 議長 小佐野圭三

○公益財団法人東京観光財団 常務理事 荒木時雄

○日本大学歯学部摂食機能療法学講座 歯学博士 熊倉彩乃

○日本大学歯学部摂食機能療法学講座 歯学博士 平井皓之

(2) 活動内容「報告」

4月 2017年度活動計画説明報告

7月 インセンティブ開発手法についての調査報告会

9月 これまでの啓発活動の状況報告と今後の予定についての報告

11月 人材育成のための教材開発の骨子や考え方の報告

12月 インセンティブツールの開発状況報告

3月 2017年度活動報告と次年度以降の活動予定について報告

Ⅳ 今後の活動について

本事業も2年が経過して、3年目に突入してきた。現在多くの課題があるが、この3年間で積み上げた数々の実績や実証結果は最終段階にきていると考える。

住民参加型啓発活動を通じて志をともにする多くの仲間・かけがいのない人材と出会うことができ、インセンティブツールの開発により、今まで継続しづらかったトレーニングを楽しく行う習慣ができ、食べる機能の維持向上に役立つとの多く声を頂いた。

住民が自分自身の力で健康寿命を手に入れ、周りの方にも健康を享受することは高齢者のいきがいにもつながり、社会参加への後押しにもなっている。

活動の重要性、必要性は十分立証できたことから、今後いかにこの活動を広めていくか・・・自立体制での展開にむけて、今までの内容を整理して今後の活動の方向性とし、誤嚥ゼロのまちづくりを一層進めていきたいと考える。